



Photo:Anne Van Aerschot

COVER PHOTO

芸劇dance

ローザス & イクトゥス

「時の渦—Vortex Temporum(ヴォルテックス・テンポラム)」

5月5日(金・祝)~7日(日) プレイハウス

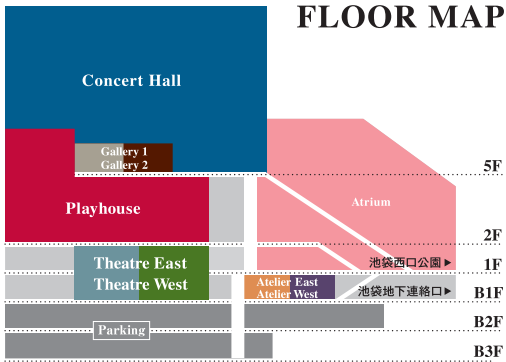
振付:アンヌ・テレサ・ドウ・ケースマイケル 出演:ローザス・ダンサーズ

音楽:ジェラルド・グリゼー『時の渦(ヴォルテックス・テンポラム)』

演奏:アンサンブル・イクトゥス(生演奏)

東京芸術劇場

Tokyo Metropolitan Theatre



FLOOR MAP

1F 東京芸術劇場ボックスオフィス

予約 0570-010-296
お問合せ (休館日を除く10:00~19:00)

5F 託児サービス

東京芸術劇場で公演ご鑑賞のお客様のお子様をお預かりします。(要予約)

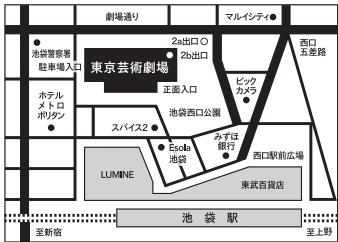
お問合せ 03-5391-2111(代)
(平日10:00~17:00)

B2F・B3F 東京芸術劇場駐車場

利用料金 300円/30分

営業時間 7:00~24:00

お問合せ 03-6914-0019



〒171-0021 東京都豊島区西池袋1-8-1

開館時間 9:00~22:00 (休館日を除く)

お問合せ 03-5391-2111

JR、東京メトロ、東武東上線、西武池袋線池袋駅西口より徒歩2分、池袋駅地下通路の2b出口に直結しています。

芸劇 BUZZ

vol.19

2017年4・5・6月号

《編集・発行》東京芸術劇場(公益財団法人東京都歴史文化財団) 《編集・デザイン》COM Works 《印刷》(株)技芸堂

平成29年3月25日発行

芸劇 BUZZ

TOKYO METROPOLITAN THEATRE EVENT INFORMATION

vol.19 2017

4.5.6.



©Herman Sorgeloos

特集・PICKUP

2017年度音楽シーズン・プログラム

アーティストック・ディレクター 藤倉大
ボンクリ・フェス2017

芸劇ランチ・コンサート

ブリュッセル・フィルハーモニー管弦楽団

めざましクラシックス サマーフェスティバル2017

N響ジャズ at 芸劇

CALENDAR

4月・5月・6月

演出 ジョン・ケアード
「ハムレット」

芸劇dance

ローザス「ファーズ」「時の渦」

TACT/FESTIVAL2017

「ピアニスト」「月と太陽」

ミュージカル「パレード」/イキウメ/FUKAIPRODUCE羽衣

伊藤熹朔賞ファイナリスト展／
大道芸／回遊美術館

芸劇ウインド・オーケストラ・アカデミー
ほか

東京芸術劇場 野田秀樹
芸術監督

演出家
対談 パフォーマー

カミーユ・ボワテル

※東京芸術劇場では、パートナー協賛の申し込みを随時受け付けております。詳細は、公式HPをご覧ください。広報営業係担当まで直接お問合せください。 Tel. 03-5391-2117

聴く！ 観る！ 感じる！ 百花繚乱の2017年度 音楽公演ラインナップ

お問合せ／東京芸術劇場ボックスオフィス 0570-010-296 (休館日を除く10～19時) www.geigeki.jp/
東京芸術劇場／〒171-0021 東京都豊島区西池袋1-8-1 JR・東京メトロ・東武東上線・西池袋線 池袋駅西口より徒歩2分 (駅地下通路2b出口直結)

今シーズンも東京芸術劇場コンサートホールを舞台に多彩な公演が開かれる。

オペラやオーケストラなど、聴きどころを展望する。

《トスカ》で泣き、《真珠とり》に震える

まず目をひくのは、2種類のオペラ公演だ。例年、全国各地の劇場と共同制作を行う東京芸術劇場シアターオペラvol.11で、歌劇《トスカ》が上演される。プッチーニの数あるオペラのなかでも、とりわけ人気の高い悲劇である。一途な愛で結ばれた歌姫トスカと画家カヴァラドッシが過酷な運命に翻弄される姿が描かれる。〈歌に生き、愛に生き〉や〈星は光りぬ〉といった名アリアは聴きどころ。ルイザ・アブレヒトヴァ、アレクサンドル・パディアほかの歌手陣と、広上淳一指揮の東京フィルハーモニー交響楽団が出演する。

注目は今回オペラ初挑戦となる映画監督河瀬直美の演出。『殯(もがり)の森』でカンヌ国際映画祭グランプリを受賞するなど国際的に評価の高い河瀬直美が、この名作オペラをどう解釈するのか。思い切った読み替え演出を

期待しているのだが、はたして？

もうひとつのオペラはビゼーの歌劇《真珠とり》。東京芸術劇場コンサートオペラvol.5として、演奏会形式で上演される。鷲尾麻衣、妻屋秀和ほかの歌手陣に、佐藤正浩指揮ザ・オペラ・バンドが加わる。ザ・オペラ・バンドはNHK交響楽団、読売日本交響楽団、東京フィルハーモニー交響楽団をはじめとする在京オーケストラの精鋭たちが集まった腕利き集団である。

ビゼーのオペラといえばまさきにあがるのは《カルメン》だが、この《真珠とり》も聴きどころの多い作品だ。ストーリー展開にやや強引なところがあるためか舞台での上演機会は決して多くはないが、音楽だけを聴けば天才による渾身の作。これでもかというくらいに美しいメロディが次々と登場する。演奏会形式にはびつたりの作品だろう。

2017-18 東京芸術劇場・音楽シーズン・プログラム コンサートホール

✦FESTIVAL

ボンクリ・フェス2017 “Born Creative” Festival 2017 2017年5月4日(木・祝)

アーティストック・ディレクター：藤倉大
デイトム・プログラム 11:00～17:00

【誰でも楽しめる！ 無料プログラム】

◆アトリウム・コンサート

出演：裕菜舎(雅楽アンサンブル)、

福川伸陽(ホルン)、

本條秀慈郎(三味線)、村治奏一(ギター)ほか

◆「リュック・フェラーリの部屋」

会場：アトリエースト(地下1階) 監修：檜垣智也

【スペシャル・コンサートのチケットで楽しめる！】
ワークショップ・コンサート

対象：スペシャル・コンサート、またはスクリームの部屋の

チケット購入者(事前申込制)

会場：シンフォニースペース(5階)

◆「ボーリン・オリヴェロスの部屋」 演奏：クレア・チェイス

◆「ペルー音楽の部屋」 演奏：イルマ・オスノ(協力：笹久保伸)

◆「ノルウェーの部屋」

演奏：ヤン・バング&ニルス・ベッター・モルヴェル

◆「三味線の部屋」 演奏：本條秀慈郎



©Geigeki Office

スペシャル・コンサート 17:30開演

出演：アンサンブル・ノマド(指揮：佐藤紀雄)、裕菜舎、クレア・チェイス(フルート)、ヤン・バング(エレクトロニクス)、ニルス・ベッター・モルヴェル(トランペット)、小林沙羅(ソプラノ)、大友良英(タンテーパール)、藤倉大(エレクトロニクス) サウンドデザイン：永見電生[Nagie]

曲目：デヴィッド・シルヴィアン&藤倉大/Five Lines(ライブ版世界初演)
The Last Days of December(ライブ版世界初演)

坂本龍一/3つのトライアングルのための作品 (ライブ版世界初演)

武満徹/「秋庭歌一具」より 第4曲「秋庭歌」

「秋庭歌」ライブ・リミックス

ブルーノ・マデルナ/ひとつの衛星のためのセレナータ

大友良英/新作(世界初演)

坂本龍一(藤倉大編曲)/thatness and thereness(アンサンブル版世界初演)

藤倉大/フルート協奏曲(アンサンブル版日本初演)

料金：S席3,000円/A席2,000円

スクリームの部屋 17:30開演

未就学児(0才より入場可)とその同伴者を対象に、スペシャル・コンサートの

同時中継を行います(事前申込制)。

会場：シンフォニースペース(5階)

料金：500円(未就学児・同伴者共)

チケット発売中

※未就学児1名につき同伴者2名まで購入可。

※お1人様1枚チケットをお求めください。

※未就学児には高校生以上の同伴が必要です。

エル・システム・フェスティバル2017

2017年10月21日(土)

詳細は後日発表

2017年10月22日(日)

ガラ・コンサート



東京芸術劇場&ミュゼザ川崎シンフォニーホール共同企画

第8回音楽大学オーケストラ・フェスティバル2017

各回15:00開演

■東京芸術劇場 コンサートホール

2017年11月18日(土) 東京芸術大学&桐朋学園大学

2017年11月19日(日) 東京音楽大学&武蔵野音楽大学

■ミュゼザ川崎シンフォニーホール

2017年11月25日(土) 上野学園大学&昭和音楽大学

2017年12月 2日(土) 東邦音楽大学&国立音楽大学&洗足学園音楽大学

料金：【全席指定】1回券1,000円/通し券3,000円(限定200セット)

チケット発売日：2017年7月8日(土)

第7回音楽大学フェスティバル・オーケストラ

■東京芸術劇場 コンサートホール

2018年3月24日(土) 15:00開演

■ミュゼザ川崎シンフォニーホール

2018年3月25日(日) 15:00開演

指揮：準・メルクル

管弦楽：音楽大学フェスティバル・オーケストラ(首都圏9音楽大学選抜オーケストラ)

曲目：シューマン/交響曲第1番「春」

ドビュッシー/交響組曲「春」 ストラヴィンスキー/春の祭典

料金：S席2,000円/A席1,500円 チケット発売日：2017年11月4日(土)

✦ORCHESTRA

N響JAZZ at 芸劇

2017年8月19日(土)

17:00開演

指揮：ジョン・アクセルロッド

ピアノ：塩谷哲 管弦楽：NHK交響楽団

曲目：ショスタコーヴィチ/二人でお茶を(タヒ・トロット) Op.16、ジャズ組曲第1番

チック・コリア/ラ・フィエスタ

バーンスタイン/「オン・ザ・タウン」より「3つのダンス・エピソード」

『ウエストサイド物語』より「シンフォニック・ダンス」

料金：S席7,000円/S席6,200円/A席5,400円/

B席4,600円/C席3,800円/D席3,000円

チケット発売日：2017年4月22日(土)



©Shinichi Suzuki



©Tetsuya Shigeta

クラシカル・プレイヤーズ東京 演奏会

2017年10月13日(金)

19:00開演

指揮：有田正広

フォルテピアノ：仲道郁代

管弦楽：クラシカル・プレイヤーズ東京

曲目：モーツァルト/交響曲第39番 変ホ長調 K.543

ピアノ協奏曲第27番 変ロ長調 K.595(オリジナル楽器使用)

交響曲第41番 ハ長調 K.551「ジュピター」

料金：S席4,000円/A席3,000円/B席2,000円

チケット発売：2017年5月24日(水)



©Masahiro Arida



©Ikuko Nakamichi

海外オーケストラシリーズ

フィルハーモニア管弦楽団

2017年5月20日(土)

18:00開演

指揮：エサ＝ベッカ・サロネン

ヴァイオリン：諏訪内晶子 管弦楽：フィルハーモニア管弦楽団

曲目：R.シュトラウス/交響詩「ドン・ファン」 Op.20

メンデルスゾーン/ヴァイオリン協奏曲 ホ短調 Op.64

R.シュトラウス/交響詩「ツァラトゥストラはかく語りき」 Op.30

料金：S席24,000円/A席19,000円/B席14,000円/

C席9,000円/学生5,000円

チケット発売中



©Esa-Pekka Salonen



©Aiko Hoshino

読売日本交響楽団演奏会

2017年8月24日(木)

管弦楽：読売日本交響楽団

主催：読売日本交響楽団

彩り豊かなオーケストラの競演

オーケストラ公演にも魅力的なラインナップがそろった。有田正広指揮クラシカル・プレイヤーズ東京はモーツァルトのピアノ協奏曲第27番(独奏は仲道郁代)や交響曲第39番、同第41番《ジュピター》といった晩年の傑作をとりあげる。作曲された当時の楽器を用いて、作品本来の姿を伝えてきたクラシカル・プレイヤーズ東京だが、今回の公演をもって解散する。最終公演にふさわしい名演を期待したい。

毎年好評の「N響」JAZZ at 芸劇」では、ジャズの影響を受けたクラシック作品が演奏される。今年はショスタコーヴィチのジャズ組曲第1番やチック・コリアの〈ラ・フィエスタ〉、バーンスタインの《ウエストサイド・物語》より〈シンフォニック・ダンス〉他、ボーダーレスな音楽体験が期待できるプログラム。指揮はジョン・アクセルロッド、ピアノは塩谷哲。クラシック音楽界に与えたジャズのインパクトの大きさを実感できるのではないだろうか。

海外からはエサ＝ベッカ・サロネン指揮フィルハーモニア管弦楽団が来日する。リヒャルト・シュトラウスを中心としたプログラムで、鮮烈なサウンドを聴かせてくれることだろう。また、ベルギーからはブリュッセル・フィルが気



©Hiroshi Hirose



©Naoko Kato



©Rieko Kato



©Rieko Kato

✦OPERA

東京芸術劇場シアターオペラvol.11

プッチーニ/歌劇『トスカ』

(全国共同制作*富山、沖縄、金沢、新潟)

2017年10月27日(金)～29日(日)

※うち2日間

指揮：広上淳一

演出：河瀬直美(映画監督)

管弦楽：東京フィルハーモニー交響楽団

出演：トスカ /ルイザ・アブレヒトヴァ

カヴァラドッシ/アレクサンドル・パディア

三戸大久、森雅史、与儀巧、高橋洋介 ほか

料金：S席10,000円/A席8,000円/B席6,000円/

C席4,000円/D席3,000円/E席1,500円 (SS席12,000円)

チケット発売日：2017年5月20日(土)



©Shiro Hirose



©Naoko Kato



©Masahito Saito



©Masahito Saito

東京芸術劇場コンサートオペラvol.5

ビゼー/歌劇『真珠とり』

2018年2月24日(土)

指揮：佐藤正浩

管弦楽：ザ・オペラ・バンド

出演：レイラ/ 鷲尾麻衣

ズルガ/ 甲斐栄次郎

ヌーラバット/妻屋秀和 ほか

チケット発売日：2017年9月23日(土・祝)

✦WIND

東京芸術劇場 Presents プラスウィーク2017

2017年9月23日(土・祝)14:00開演

東京吹奏楽団 指揮：小林恵子

2017年9月30日(土)14:00開演

東京吹奏楽団 指揮：小川恵子

2017年9月25日(日)19:00開演

2017年11月1日(水)19:00開演

英国女王陛下の近衛軍楽隊

ブラック・ダイク・バンド

指揮：ニコラス・チャイルズ

2017年9月 3日(日)12:45開演

バンドクリニック「中・高生のための楽しい吹奏楽」

芸劇ウィンド・オーケストラ 第4回演奏会

2018年3月3日(土)

指揮：シズオ・Z・クワハラ

吹奏楽：芸劇ウィンド・オーケストラ



©Shozo Z. Kwahara

鋭の指揮者ステファン・ドゥナーヴとともに初来日する。ベートーヴェンの《英雄》で旋風を巻き起こすか。

リラックスして楽しめる平日昼間の公演も

近年、コンサートシーンで存在感を増してきているのは平日昼間の公演。多様なライフスタイルを反映して、人気が高まっている感がある。週末や夜よりも平日昼のほうが出かけやすいという方や、ランチタイムに音楽を楽しみたいという方もいらっしゃるだろう。

東京芸術劇場でも、年間6回開かれるランチタイム・パイプオルガンコンサートや、平日の午前中に開かれる前橋汀子のデイト・コンサート、さらに毎偶数月には芸劇ブランチ・コンサートシリーズが開催される。夜の公演とはまたちがったリラックスした気分で、音楽を聴く喜びに浸れるのではないだろうか。

今シーズンもすばらしい音楽との出会いが待っている。

文：飯尾洋一(音楽ジャーナリスト)

2017年3月1日現在

✦FAMILY

パイプオルガン講座 特別編 ―コンサート & こうさく―

2017年8月8日(火)

◆コンサート 親子で楽しめるパイプオルガン・コンサート 13:00開演

出演：川越聡子(オルガン) ほか 料金：【全席自由】500円 ※3才から入場可

◆こうさく 夏休み紙工作で紙パイプを作ろう! 14:00開始

料金：1,000円(材料費込) ※夏ハサミ持参、小学4年生以上対象

チケット発売：5月下旬予定 ※S・A席共通

0才から聴こう!! / 4才から聴こう!!

春休みオーケストラコンサート

※各回50分、同プログラム入替制

2018年3月29日(木) 2回公演

ソリスト：東京音楽コンクール入賞者予定

管弦楽：読売日本交響楽団

料金：S席3,500円/A席2,500円/こども(3才以上小学生まで)1,000円

芸 劇 提 携 事 業

ブリュッセル・フィルハーモニー管弦楽団

2017年6月11日(日) 14:00開演

指揮：ステファヌ・ドゥナーヴ ピアノ：モナ・飛鳥・オット

管弦楽：ブリュッセル・フィルハーモニー管弦楽団

曲目：ベートーヴェン/ピアノ協奏曲第5番「皇帝」、交響曲第3番「英雄」

コネソノ/フラメンシェリフト (炎の言葉)

料金：S席12,000円/A席10,000円/B席8,000円/C席6,000円

チケット発売中 主催：デンポプリモ

ブルボン Presents 20th Anniversary

めざましクラシックスサマーフェスティバル 2017

2017年7月27日(木)～30日(日)

出演：高崎ちさ子(ヴァイオリニスト)、軽部真一(フジテレビアナウンサー) ほか

チケット発売日：2017年4月15日(土)

主催：フジテレビジョン/キョードー東京/ジェイ・ツー

前橋汀子 デイト・コンサート

2017年12月13日(水) 11:30開演

主催：KAIJIMOTO

芸劇ブランチ・コンサート ―清水和音の名曲ラウンジ―

2017年 4月26日(水) / 6月28日(水) / 8月30日(水) /

10月17日(火) / 12月19日(火)

2018年 2月 6日(火)

演奏：アンサンブル・サンセリテ(ピアノ：清水和音 ほか)

ナビゲーター：八塩圭子 ほか 主催：毎日新聞社/MYAZAWA & Co.

芸劇ランチ・コンサート ～清水和音の名曲ラウンジ～

4月26日(水)・6月28日(水)・8月30日(水) 各回11:00開演 コンサートホール

詳細はP10、14へ

芸劇ランチ・コンサート～清水和音の名曲ラウンジ～

ピアニスト・清水和音とアナウンサー・八塩圭子が進行役を務め、昨年4月より毎偶数月に開催している人気公演!! 朝11時から約1時間、内容を凝縮した楽しく本格的なコンサートだ。N響の首席奏者や日本音楽コンクール優勝者など、日本トップレベルの演奏者8名のメンバーによる「アンサンブル・サンセリテ」の上質な演奏で、耳馴染みのある曲を中心にお届けする。また毎回「和音・今月の一曲」として、清水和音によるピアノ独奏曲も演奏。4月はヴィオラが主役、6月はバッハの名曲を、そして8月には清水和音のソロでピアノ小品集という内容だ。

演奏: アンサンブル・サンセリテ(ピアノ: 清水和音 ほか) ナビゲーター: 八塩圭子
4月26日(水): 第7回「ヴィオラに恋して」／6月28日(水): 第8回「バッハに心酔」／8月30日(水): 第9回「清水和音 リサイタル」
【お問合せ】サンライズプロモーション東京 0570-00-3337

清水和音

八塩圭子

ブリュッセル・フィルハーモニー管弦楽団

6月11日(日) 14:00開演 コンサートホール

詳細はP13へ

ヨーロッパで最注目の名門オーケストラ、初来日!

創設以来、様々な現代作品の初演を果たし、ヨーロッパ各地で大成功を収め、2016年にドイツ・グラモフォンのCDが仏・ディアパソン誌で年間大賞を受賞したベルギーの名門ブリュッセル・フィルが初の来日を果たす。今回は、NHK交響楽団やミュンヘン・フィル、フィラデルフィア管弦楽団への客演など、その妥協なき音楽作りが世界各地で絶賛を博す新音楽監督ステファヌ・ドゥネーヴが参加。活躍著しいドイツ期待の新星、ピアニスト・モナ＝飛鳥・オットとの「皇帝」や名曲「英雄交響曲」など、ベートーヴェンを中心とした豪華プログラムは、クラシック・ファンならずとも必聴!

指揮: ステファヌ・ドゥネーヴ ピアノ: モナ＝飛鳥・オット 管弦楽: ブリュッセル・フィルハーモニー管弦楽団
【お問合せ】テンポプリモ 03-5810-7772

ステファヌ・ドゥネーヴ

モナ＝飛鳥・オット

ブルボン Presents めざましクラシックス サマーフェスティバル 2017

7月27日(木)～30日(日) コンサートホール

詳細はHPへ

豪華ゲストを迎えて贈る20周年記念公演

ヴァイオリニスト高嶋ちさ子と、フジテレビアナウンサー軽部真一がプロデュースする人気公演「めざましクラシックス」。1997年に始まった本シリーズは、メインキャストの二人が繰り広げる爆笑トーク、ジャンルレスな選曲と一流の演奏家達が生み出す美しいハーモニー、そして豪華ゲストとのコラボレーションを軸に全国各地にクラシックの魅力をお届けしてきました。今年1月には通算公演数が300回を突破。20周年となる今回は豪華スペシャルゲストを迎え、4日間5公演という壮大な規模で夏を鮮やかに彩ります。

出演: 高嶋ちさ子(Vn)、軽部真一(フジテレビアナウンサー)、松本蘭(Vn・29日昼のみ)
ゲスト: 27日/徳永二男(Vn)、三浦文彰(Vn) 29日昼/山崎育三郎、高嶋ちさ子(Vn) 30日/藤井フミヤ、押尾コータロー ほか
28日/小田和正、沖仁 ほか 29日夜/岸谷香、三浦文彰(Vn) ほか
【お問合せ】キョードー東京 0570-550-799

軽部真一

高嶋ちさ子

N響JAZZ at 芸劇

8月19日(土) 17:00開演 コンサートホール

詳細はHPへ

夏の夜に愉しむ、シンフォニックジャズ!

東京芸術劇場とNHK交響楽団との新しい取り組みとして始まり、毎回好評を得ているこのシリーズ。テーマは“シンフォニックジャズ”。ジャズの影響を受けた管弦楽曲のことで、クラシック音楽のジャンルの一つとして注目を浴びている。バーンスタインにも師事した指揮者ジョン・アクセルロッドのもと、3回目の開催となる2017年は、バーンスタインの名曲〈シンフォニック・ダンス〉のほか、ソリストにジャズのほかポップスからクラシックまで幅広く活躍するピアニスト塩谷哲を迎え、ショスタコーヴィチのジャズ組曲第1番などを取り上げる。真夏の夜、上質なN響サウンドで贈るシンフォニックジャズを是非ご堪能いただきたい。

指揮: ジョン・アクセルロッド ピアノ: 塩谷哲 管弦楽: NHK交響楽団

ジョン・アクセルロッド

塩谷哲

ボンクリ・フェス2017 “Born Creative” Festival 2017

私たちの内なる創造性を失わないために

「ボンクリ」とは、「ボーン・クリエイティヴ」の略。「人間は皆、生まれつきクリエイティヴである」ということを標榜する、新しい音楽祭が開催される。

私たちの音楽としての現代音楽はどこに

たとえば、いわゆる現代音楽を「私たちの音楽」「私たちのための音楽」だと思うかどうか。それは、同時代の音楽であると呼ばれながらも、同時代の多くの人々にとって身近にあり、親しまれる音楽とはなりえていないこともたしかだ。なぜだろう。

考えてみると、私たちの音楽教育の中で、そのような現代音楽にふれることはほとんどない。高校までの音楽の授業で、もしかしたらジョン・ケージくらいは話に出てくるかもしれない、という程度ではないだろうか。美術の教科書には、20世紀以降の近現代美術の作品が説明されていて、さらに最近では最新のメディア・アート作品までが紹介されているのにくらべるとちょっとさびしい感じもする。子供たちにうけそうな流行のポップスを教科書に載せ、現代音楽は複雑で難解なものであるとして、それと出会う機会からも遠ざけられてしまっているというのが現状なのではないか。

子供は「新しい音楽」や「変な音」が好き

作曲家藤倉大は、数年前より福島県相馬市で、5歳から高校生までを対象にした作曲教室を開講している。それを通じて、「全ての人間は子供の頃、「新しい音楽」「新しい音」、そして5歳の子供の言葉を借りると「変な音」が大好きだった」ということがわかったという。しかし、そうした生まれつき持っていたはずの創造性は成長するにつれて失われてしまう。それはなにによってなのか。現在の日本の音楽教育の中では、想像力や創造性というものが、むしろ学習

によって枠にはめられてしまい、足枷になってしまっている、という捉え方もあるだろう。そこで、教育音楽に馴致させられてしまう前の、私たちが持っているという音楽的感性の可能性をいかにして呼び覚ますのか。

子供の頃に持っていたはずの自由な発想、軽く日常を逸脱する想像力、訳の判らないものに対する好奇心などに対して、あのころはよかった、となつかしむことがあるだろう。しかし、自由や逸脱を可能にするのもやはり知識であり、ある種のディシプリンである、ということもまた正しいことだ。

私たちの内なる創造性を触発するプログラム

藤倉がアーティストック・ディレクターを務める『ボンクリ・フェス2017』は、藤倉のいう「大人になっても5歳の子供のままクリエイティヴでいる人達」の作品を集めた、新しい音楽に触れるためのイベントだ。0歳の子供から大人までが楽しめる無料アトリウム・コンサートや「リュック・フェラーリの部屋」、「ポーリン・オリヴェロスの部屋」、「ペルー音楽の部屋」といったワークショップ・コンサート、さらには、即興音楽、電子音楽、日本の伝統音楽である雅楽までを取り上げるスペシャル・コンサートでは、デヴィッド・シルヴィアンと藤倉との共作曲、坂本龍一や大友良英の新作、アンサンブル・ノマドが演奏する、坂本龍一の(thatness and thereness)(藤倉による編曲)、武満徹の《秋庭歌一具》より第4曲《秋庭歌》などが演奏される。

こうしたクリエイティヴな音楽こそが、さらに私たちの内なる創造性を触発し、音楽をアップデートすることを可能にするだろう。

文: 畠中実(NTTインターコミュニケーションセンター [ICC] 主任学芸員)

ボンクリ・フェス2017 “Born Creative” Festival 2017 5月4日(木・祝) アーティストック・ディレクター: 藤倉大 詳細はHPへ
スペシャル・コンサート 17:30開演 コンサートホール

- デヴィッド・シルヴィアン&藤倉大／Five Lines(ライブ版世界初演)、The Last Days of December(ライブ版世界初演)
- 坂本龍一／3つのトライアングルのための作品(ライブ版世界初演) ■武満徹／『秋庭歌一具』より 第4曲「秋庭歌」
- 「秋庭歌」ライブ・リミックス ■ブルーノ・マデルナ／ひとつの衛星のためのセレナータ ■大友良英／新作(世界初演)
- 坂本龍一(藤倉大編曲)／thatness and thereness(アンサンブル版世界初演) ■藤倉大／フルート協奏曲(アンサンブル版日本初演)

出演 アンサンブル・ノマド(指揮: 佐藤紀雄)／伶楽舎／クレア・チェイス(フルート)／ヤン・バング(エレクトロニクス)／
ニルス・ペッター・モルヴェル(トランペット)／小林沙羅(ソプラノ)／大友良英(ターンテーブル)／藤倉大(エレクトロニクス)
サウンドデザイン: 永見竜生[Nagie]

スクリームの部屋: 未就学児とその同伴者対象に、スペシャル・コンサートの同時中継をおこないます。(料金500円・事前申込制)

デタイム・プログラム

11:00～17:00

赤ちゃんからシニアまで楽しめる無料アトリウム・コンサートや、ワークショップ・コンサート(スペシャル・コンサートまたはスクリームの部屋のチケット購入者を対象)などを、館内各所でおこないます。

ハムレット

作:ウィリアム・シェイクスピア
演出:ジョン・ケアード

ハムレットは、 シェイクスピア自身に とても近い

世界的なミュージカル演出家にして
シェイクスピア劇のエキスパート、ジョン・ケアードが
日本人俳優で『ハムレット』を演出する。
名作に血を通わす成熟の思考を聞いた。

肩書きで人を判断するのはあまり品の良いことではないが、400年以上も上演され続け、世界中で研究されているシェイクスピア劇の本場イギリス、しかもロイヤル・シェイクスピア・カンパニーの名誉アソシエート・ディレクターと聞けば、シェイクスピアに関する知識と演出力がどれだけ豊かなものであるかが推し量れる。そんなケアードさんにとっても『ハムレット』は特別な戯曲だと言う。その理由はなんなのだろう。

「シェイクスピアの戯曲には、それぞれひとつ——作品によってはいくつか——のテーマがあります。その中でも『ハムレット』がなぜ特別かと言ったら、シェイクスピア自身の人生についての考えが、深いところで突き詰められているから。生きることの痛みやつらさ、その問いをずっと続けている。だからハムレットという役は、シェイクスピアの頭の中と同様に、複雑で魅力的なんです。シェイクスピア＝ハムレットとまでは言えませんが、かなり近いのではないかという気がしますね。他の登場人物も、シェイクスピアの深い思考が注入されていると思います」

ハムレットの複雑さで思い当たるのは、有名な“To be, or not to be, that is the question.”というせりふ。海外戯曲の上演では常に翻訳の問題がついて回る日本でも特に、どう訳されるかが注目されるが。

「あそこは間違いなく“生きるべきか死ぬべきか”にはしないでしょう。あのせりふは単純な生か死かを問うているのではなく、存在について思考していると私は思います。そもそもあれは、イギリス人が聞いたってどういう意味かわかりません(笑)。でも大丈夫、その後で24行使ってハムレットが説明してく



interview
ジョン・ケアード

れますから。つまりあの1行はミステリアスであったほうがいいんです。それがシェイクスピアの意図したことで、より根源的な問いに観客を導きます」

シェイクスピアの意図について、もうひとつ興味深い事実を教えてください。「彼の喜劇は必ず結婚で終わります。それには理由があって、結婚とは子供が生まれること、つまり未来が示唆される。未来が続くのは幸せなんです。かたや、たとえば『リア王』が悲劇なのは、リア王が死ぬからではありません。彼はもう80歳の高齢で、そう長く生きないと最初にわかっています。そうではなく、年若いコーデリアが死ぬから悲劇なんです。新しい世代が生まれない。『ハムレット』も同じです。オフィーリアの死の知らせをガートルードが運んでくるのは、ちょっと考えると不自然ですが、そこには意味がある。息子の妻になるはずだった娘が死んだ、それは孫が生まれないことを意味します。ガートルードの命が続いていかないわけで、それは彼女の死でもあるのです」

こうした深い理解を聞くと、日本での『ハムレット』への期待は加速度的に増す。キャスティングにもぬかりはなく、ほとんど全員に直接会って決めたという。

「キャストを決めるのはレンガで壁をつくる作業に似ています。最初に大きい石を積んで、それにフィットする石を見つけて順番に組み合わせていく。そうすると最後は頑丈な壁になりますよね」

だから盤石と太鼓判を押す今回の座組みで、文字通り最初の礎となったハムレット役には、何年も前から指名していた内野聖陽が当たる。

「彼とは以前に、『ベガーズ・オペラ』という非常に大きなミュージカルで仕事をしましたが、その時も彼は主役でした。哲学的なテーマがあり主人公は孤独を抱えていましたが、内野さんがやるとユーモアが生まれた。最初に『ハムレット』は複雑な話だと言いましたが、実は笑いもかなり埋め込まれている。ハムレットは機知に富んでいるから、どんな状況でも冗談を言うし、ゲームを仕掛けては誰かのバカさ加減や弱みを引き出そうとしますよね。だから『ベガーズ・オペラ』の時から、内野さんとハムレットは同じ資質を持っていると感じて、ずっと彼を望んできました」

ジョン・ケアードの決定版『ハムレット』は、日本で生まれるかもしれない。
文:徳永京子

4月9日(日)～28日(金) プレイハウス
※プレビュー公演 4月7日(金)・8日(土) 詳細はP9へ

作:ウィリアム・シェイクスピア 翻訳:松岡和子
上演台本:ジョン・ケアード／今井麻緒子
演出:ジョン・ケアード 音楽・演奏:藤原道山
出演:内野聖陽／貫地谷しほり／北村有起哉
加藤和樹／山口馬木也／今拓哉
大重わたる・村岡哲至・内堀律子・深尾由真
壤晴彦／村井國夫／浅野ゆう子／國村隼



芸劇dance ローザス

「ファーズ」「時の渦」

振付:アンヌ・テレサ・ドゥ・ケースマイケル

覚醒する視覚と聴覚—— ローザスにおける 動きと音楽

ベルギーに拠点を置く
ダンスカンパニー「ローザス」。
その創設者である振付家
アンヌ・テレサ・ドゥ・ケースマイケルは
今もダンスシーンの先端を走り続けている。

ダンスシーンの先端を走り続ける振付家

1982年、若干22歳だったアンヌ・テレサ・ドゥ・ケースマイケルはデビュー作『ファーズ』によって、当時全く新しい身体表現として生まれつつあったコンテンポラリーダンスの世界の先端に躍り出た。当時ベルギーでは、“フランドル・ニューウェーブ”と呼ばれたヤン・ファーブルやヤン・ロワース、ヴィム・ヴァンデケイヴュスなどの気鋭の若手芸術家が台頭し、世界中から注目され始めていた。ケースマイケルはその潮流を牽引した人物として筆頭に上げられる。彼女が1983年に創設したカンパニー「ローザス」は、1992年から2007年までベルギー王立モネ劇場のレジデンス・カンパニーとして活動をし、今やベルギー国内のみならず、世界中からオファーを受けるトップ・カンパニーとなった。また1995年には自身が監督を務める舞踊学校P.A.R.T.S (Performing Arts Research Training Studios)を設立し、世界中から集まった若手ダンサーがここから巣立っている。ケースマイケルが現代のダンスシーンやカルチャー全般に与えている影響は計り知れない。

ブリュッセルとニューヨークで育まれた感性

ケースマイケルは、どんな環境で舞踊家として素養を身につけてきたのか、その経歴を振り返ってみたい。ケースマイケルは18歳の時、振付家モーリス・ベジャールがユネスコやベルギー政府の支援を受けてブリュッセルに開設した舞踊学校ムードラに入学した。当時ムードラのオーディションは世界各国で行われており、同窓生の中には後に「ローザス」を共に結成することになる池田扶美代もいた。ムードラの教育は、クラシック・バレエだけでなく、インド



アンヌ・テレサ・ドゥ・ケースマイケル
©Hugo Glendinning

舞踊やフラメンコ、ヨガ、演劇なども含まれていた点で画期的だったが、とりわけケースマイケルにとって、リズム論の授業を担当していた音楽家フェルナン・シレンとの出会いはひととき重要なものだった。というのも、ケースマイケルの創作において、音と動きの関係の探求は常に重要な位置を占め



「時の渦-Vortex Temporum」
©Herman Sorgeloos

ており、その一貫した姿勢はこの時期にシレンと出会いによって養われたと考えられるからである。

その後、ケースマイケルは、学びの場をブリュッセルから新天地ニューヨークに移す。ブリュッセルを出発する時、荷物の中にはスティヴ・ライヒの『ヴァイオリン・フェイス』のテープがあった。シンプルなフレーズだが、それが反復し多層的に展開していくライヒの音楽は、リズムの構造分析を学んだケースマイケルにとっては解釈しがいのある音楽だったに違いない。ニューヨークに滞在中に、早速ケースマイケルはその音楽に合わせて後の『ファーズ』の一部となるソロ作品を創作し、発表した。ライヒのアンサンブルメンバーとの出会いや、ニューヨーク公演から手応えを得たケースマイケルは、ベルギーに帰国後、ムードラの同窓生だったミシェル・アンヌ・ドゥ・メイと共にさらにライヒの3つの楽曲に振り付け、『ファーズ』として発表した。緻密で幾何学的な身体動作の美しさを見せると同時に、音楽の原初的なリズムの快楽に身を委ねさせるこの作品は、現在でも再演され続けている不朽の名作である。

動きと音の関係の深化

以来、ケースマイケルの音と動きの関係の探求は現在も続く。今回、日本初公演となる『時の渦』(作曲ジェラルド・グリゼー、初演2013年)は、ケースマイケルがスペクトル楽派の作曲家であるグリゼーの同名の楽曲に振り付けた新境地に挑む作品である。スペクトル楽派は、音楽を音波として捉え、音響分析を作曲手法として取り入れることで知られ、その音楽からは私たちが通常慣れ親しんでいる明瞭なリズムやハーモニーは排されている。こうした実験的な音楽に振り付けること自体、極めて挑戦的な試みであることは言うまでもない。6人の演奏家及び指揮者と7人のダンサーの実演が織りなす音と動きの多層的な関係が一つの見どころとなるだろう。

この二つのケースマイケルの作品は、音楽の力を身体によって具現化すると同時に、音楽に支配されることのない自律したダンスの新しい次元をも切り拓いている。そこで展開される動きと音は、私たちの時空間の認識を揺さぶり、「見ること」と「聴くこと」の新たな経験を生みだしてくれるはずである。

文:越智雄磨

「ファーズ—Fase」 詳細はP11へ
5月2日(火) 19:30／3日(水・祝) 15:00 プレイハウス

振付:アンヌ・テレサ・ドゥ・ケースマイケル
出演:アンヌ・テレサ・ドゥ・ケースマイケル／ターレ・ドルヴェン
音楽:スティヴ・ライヒ(録音)

「時の渦—Vortex Temporum(ヴォルテックス・テンポラム)」(日本初演)
5月5日(金・祝) 17:00／6日(土)・7日(日) 15:00 プレイハウス

振付:アンヌ・テレサ・ドゥ・ケースマイケル
出演:ローザス・ダンサーズ
音楽:ジェラルド・グリゼー「時の渦(ヴォルテックス・テンポラム)」
演奏:アンサンブル・イクトゥス(生演奏)



「ピアニスト」



「月と太陽 -Eclipse-」



「ひつじ」

ACT FESTIVAL 2017

3つの不思議な世界がひらく、魔法の扉がやってくる!

家族で楽しめる世界最先端のパフォーマンスを招いてきたタクト・フェスティバル。
今回は初参加の国もあり、幻の技もありで、ひと味違うオモシロさだ!

一台のピアノにまつわるスペクタクル

フィンランドからは、シルコ・アエレオのトム・モンクトンが創作した作品を紹介しよう。

タイトルは『ピアニスト』。一台のグランドピアノとシャンデリアが設置されている舞台上に、みるからに神経質そうなピアニストが登場する。彼は演奏に向かおうとするのだが、ピアノにたどり着くまでが一苦労だ。楽譜からして思い通りにならないし、予想の斜め上に行くようなとんでもないことが次々に起きる。果たして無事演奏することはできるのか……!?

この作品の演出を手がけているモンクンはニュージーランドでサーカスを学び、その後ニューヨークでも高い評価を得た。現在拠点にしているフィンランドは国立のサーカス学校もある、北のサーカス大国なのである。出演者のコートニー・スティーヴンスは身体を使ったコミカルなフィジカル・シアターを得意とし、30カ国以上で公演を重ねているベテランである。

ハラハラと爆笑が、ピアノの上で交差する。ピアニストとは、全身でピアノと格闘する者なのだ!

本国でも実現不可能!? 仮面舞踊と影絵の融合

もうひとつ、神話が息づく国インドネシアのバリ島から、特別なパフォーマンスがやってくる。

バリ島を代表する伝統芸能として「トベン(仮面舞踊)」と「ワヤン・クリ(影絵芝居)」が有名だ。両者は全く違うスタイルなので、同じ人間が両方を演じることが本国でもまずないという。しかし今回は、両方を修めた数少ないアーティスト、カデック・チャブンが、タクト・フェスのために、仮面舞踊と影

絵芝居を融合させた新作『月と太陽 -Eclipse-』を創作してくれるのである。「伝説的なダラン(人形遣い)」といわれた親のもとで幼い頃から修行を積んだカデックは、昨年東京芸術劇場でも公演された、国際共同制作『三代目、りちやあど』にも出演し、強い印象を与えた。いまや自身が随一のダラン(人形遣い)であると同時に、仮面舞踊トベンの踊り手としても活躍している、異彩を放つ存在だ。

本来、仮面舞踊のトベンは「ババット(王国時代の系譜物語)」を、影絵芝居のワヤンは『マハーバーラタ』などインドの長編叙事詩を扱うなど、区別がある。しかし今作でカデックは『マハーバーラタ』の日食と月食の起源にまつわる神話的な舞台を創出した。さらに仮面舞踊では物語の進行を務める道化役が、影絵には様々な動物が登場して、ユーモラスで見た目も楽しいシーンが盛りだくさんである。

そして本国から招くトップクラスのアーティストと日本人演奏家によって生演奏されるガムランも見所のひとつだ。鉄琴のような構造の独特な楽器グンデル・ワヤンは、演奏する姿が繊細で複雑なため、まるでダンスを見ているよう。しかも普通の演奏でも高度な技術が要求されるのに、本作では4人の奏者がそれぞれ2台の楽器を演奏する。仮面舞踊と影絵芝居で使う曲は音階からして違うため(ペログ音階とスレンドロ音階)、それを難なく弾きこなす超絶技巧の演奏もまた、見応え十分のパフォーマンスなのである。

そして! カナダからはまたも「彼ら」がやってくる! 劇団コープスの『ひつじ』である。笑わない、愛想がない、したくなったら糞もする。しかし不思議なキモ可愛さ満載の羊たちに、大人も子どももグッと心を掴まれてしまう。

タクト・フェスティバルは、これらのプログラムをハシゴして見ることも可能。ゴールデンウィークは、一日ゆっくり家族で東京芸術劇場で過ごし、楽しく胸躍る世界への扉を開けてほしい。

文: 乗越たかお(作家・ヤサぐれ舞踊評論家)

フィンランドのソロパフォーマンス 「ピアニスト」 シアターイースト
バリ島の仮面舞踊と影絵芝居 「月と太陽 -Eclipse-」 シアターウエスト

料金: 【全席自由】大人2,000円/子ども(高校生以上)1,000円/未就学児500円 <2演目セット券>大人3,500円/子ども1,500円

劇団コープス「ひつじ」 ロワー広場【観劇無料】

	月と太陽	ひつじ	ピアニスト
5月4日(木・祝)	14:30	—	16:30
5月5日(金・祝)	13:00	14:45	16:00
5月6日(土)	13:00	14:45	16:00
5月7日(日)	13:00	14:45	16:00

ミュージカル「パレード」

5月18日(木)～6月4日(日) プレイハウス

詳細はP12へ



撮影: HIRO KIMURA

秀作社会派ミュージカルを豪華な布陣で日本初演

毎日芸術賞演劇部門・第11回千田是也賞、第21回読売演劇大賞最優秀演出家賞受賞など作品の評価も高い気鋭の演出家・森 新太郎が初めてミュージカルの演出に挑戦。手掛ける『パレード』は20世紀初頭のアメリカ南部で起きた、激しい人種差別意識による冤罪事件を題材とする骨太な人間ドラマだ。脚本のピューリッツァー賞作家A・ウーリー、『ラスト・ファイブ・イヤーズ』など日本でも作品を知られる作詞・作曲J・R・ブラウンのタッグによる今作は、1999年のトニー賞最優秀作曲賞、最優秀脚本賞を受賞。石丸幹二、堀内敬子、岡本健一ら歌と演技の両輪を兼ね備えた実力派キャストが顔をそろえ、大充実の日本初演が期待できる。

文: 尾上そら(ライター)

作: アルフレット・ウーリー 作詞・作曲: ジェイソン・ロバート・ブラウン 演出: 森 新太郎
出演: 石丸幹二/堀内敬子/武田真治/新納慎也/坂元健児/藤木孝/石川禅/岡本健一 ほか
【お問合せ】ホリプロチケットセンター 03-3490-4949

イクウメ「天の敵」

5月16日(火)～6月4日(日) シアターイースト

詳細はP12へ



大人気劇団の新作は“不老不死”を巡る物語

日常的な設定から、いつの間にか大胆なSF的展開へと物語をスライドさせて高い評価を誇る劇団イクウメ。もうひとつの特徴は、ブラッシュアップや再アレンジで、ひとつの作品をアップデートすること。『天の敵』も、2010年に上演された人気短編集シリーズ『図書館の人生Vol.3』の中のひとつ「人生という、死に至る病に効果あり」を長編化、フルスケール作品にするという。あるルポライターが出会ったのは、独自の食事療法で122歳の長寿を得た30代にしか見えない料理家だった……。

文: 徳永京子

作・演出: 前川知大
出演: 浜田信也、安井順平、盛隆二、森下創、大窪人衛/小野ゆり子、太田緑ロランス、松澤傑、有川マコト、村岡希美
【お問合せ】イクウメ 03-3715-0940

FUKAIPRODUCE羽衣「愛死に」

6月8日(木)～18日(日) シアターイースト

詳細はP13へ



耳と心を驚づかみにする、深くて甘い愛の数々

ストーリー性が高くインパクトのある歌詞とキャッチーなメロディが、次々と中毒者を出している羽衣。「妙なミュージカルだから妙〜ジカル」と自称する作品は、毎回、まっすぐな恋や赤裸々な性愛を扱うが、少々下品な描写も、核にある生きることへの真剣さ、人間そのものへの大きな愛、さらに絶妙な愛嬌によって、悪ふざけにならず、逆にこちらの胸を打つ。4年ぶりの芸劇は、7年前の芸劇eyes作品の再演。新キャストの効果もあり、一層深くて甘い、愛の物語となるはず。

文: 徳永京子

プロデュース: 深井順子 作・演出・音楽: 糸井幸之介
出演: 深井順子、鯉和鮎美、高橋義和(以上、FUKAIPRODUCE羽衣)、榊原毅、野上絹代(FAIFAI/三月企画) ほか
【お問合せ】FUKAIPRODUCE羽衣 080-7062-7822

COMING UP NEXT 2017年 7月～9月

演劇・ダンス ラインナップ

7月21日(金)～30日(日)
「気づかいルーシー」シアターイースト
原作: 松尾スズキ 上演台本・演出: ノゾエ征爾
チケット発売: 5月中旬

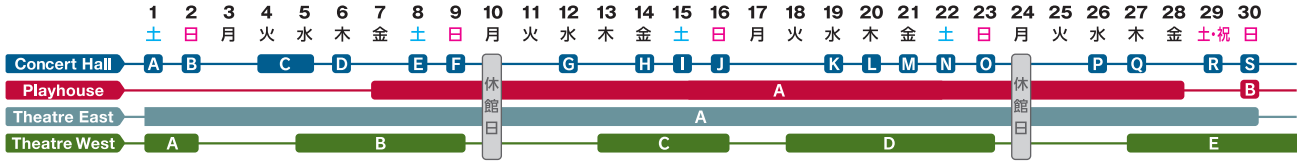
7月下旬
マルタン・ズィメルマン「Hallo」プレイハウス
チケット発売: 5月中旬

8月上旬
朗読「東京」シアターウエスト
チケット発売: 7月1日予定

8月中旬
芸劇dance
勅使川原三郎 振付・出演 新作
プレイハウス

8月10日(木)～9月3日(日)
日本総合悲劇協会vol.6
「業音」シアターイースト
作・演出・出演: 松尾スズキ
チケット発売: 6月上旬

4 APR



Concert Hall

音楽略号:指揮(Cond)ノソプラノ(S)メソソプラノ(Ms)ノアルト(A)ノテノール(T)ノバリトン(Br)ノバス(Bs)ノコーラス(Chor)ノヴォーカル(Vo)ノピアノ(Pf)ノオルガン(Org)ノヴァイオリン(Vn)ノヴィオラ(Va)ノチェロ(Vc)ノ

A 1日(土) 13:00開演／18:30開演

Go!Do!Concert 2017

出演 山野楽器音楽教室／アンサンブルグループ
曲目 シベリウス／『フィンランディア』
ビゼー／『カルメン組曲』より
「前奏曲」「ハバネラ」「アラゴネーズ」ほか
料金 【全席指定】前売:1,080円／当日:1,500円
問合 ヤマノミュージックサロン有楽町 03-5293-8825

B 2日(日) 15:00開演

東京佼成ウインドオーケストラPresents
吹奏楽大作戦2017

出演 大井剛史(Cond)／東京佼成ウインドオーケストラ
曲目 真島俊夫／吹奏楽のための交響詩「涙の見える風景」
メモリーズ・オブ・フレンズ 改定版
地球・美しき惑星・
『三つのジャボニスム』より「祭り」ほか
料金 【全席指定】大人:3,000円／
子ども:1,500円(3歳以上中学生以下)／
体感コース:4,000円(限定40枚)
問合 東京佼成ウインドオーケストラチケットサービス 03-692-556

C 4日(火)・5日(水) Closed・関係者のみ

立教大学 入学式

D 6日(木) Closed・関係者のみ

後藤学園 合同入学式

E 8日(土) 14:00開演

読売日本交響楽団
第196回土曜マチネーシリーズ

出演 シルヴァン・カンブルラン(Cond)／読売日本交響楽団
曲目 ハイドン／交響曲第103番「太鼓連打」
マーラー／交響曲第1番「巨人」
料金 S:7,500円／A:5,500円／B:4,500円／C:4,000円
問合 読響チケットセンター 0570-00-4390

F 9日(日) 14:00開演

読売日本交響楽団
第196回日曜マチネーシリーズ

出演 シルヴァン・カンブルラン(Cond)／読売日本交響楽団
曲目 ハイドン／交響曲第103番「太鼓連打」
マーラー／交響曲第1番「巨人」
料金 S:7,500円／A:5,500円／B:4,500円／C:4,000円
問合 読響チケットセンター 0570-00-4390

G 12日(水) 18:30開演

鈴木雅之withオーケストラ・ディ・ローマ
featuring服部隆之

出演 鈴木雅之／服部隆之(Cond)／オーケストラ・ディ・ローマ
料金 S:10,500円／A:9,000円
問合 サンライズプロモーション東京 0570-00-3337

H 14日(金) 18:30開演

The 10th WORLD PEACE
CLASSIC CONCERT

華麗なる協奏曲の祭典

出演 新田孝(Cond)／安達真理(Va)／篤宮美幸(Pf)
ピアノデュオ ドゥオール(藤井隆史&白水芳枝)
瀬川祥子(Vn)／水谷川優子(Vc)／NIPPON SYMPHONY
曲目 エルガー／チェロ協奏曲(ヴィオラ版)
ラフマニノフ／ピアノ協奏曲第3番
ブルッフ／2台のピアノのための協奏曲
ブラームス／ヴァイオリンとチェロのための二重協奏曲
SS:7,000円／S:6,000円／A:5,000円／B:4,000円
問合 NIPPON SYMPHONY 090-6927-3447

I 15日(土) 18:00開演

読売日本交響楽団 第567回定期演奏会

出演 シルヴァン・カンブルラン(Cond)／
ユディット・イリス・フェルミリオン(Ms)／
青ひげ公・バリント・ザボ(Br)／読売日本交響楽団
曲目 メシアン／忘れられた捧げもの
ドビュッシー／『聖セバスティアンの殉教』交響的断章
バルトーク／歌劇『青ひげ公の城』(演奏会形式／字幕付)
料金 S:7,500円／A:6,500円／B:5,500円／C:4,000円
問合 読響チケットセンター 0570-00-4390

J 16日(日) 14:30開演

青山シンフォニーオーケストラ
創立30周年記念 第30回定期演奏会

出演 汐澤安彦(Cond)／稲見里恵(S)／牧野真由美(A)／
高橋淳(T)／清水良一(Br)／青山シンフォニーオーケストラ
曲目 ベートーヴェン／交響曲第9番「合唱付」
料金 S:2,000円／A:1,500円／B:1,000円
問合 広報担当 045-713-3478

BOX 東京芸術劇場ボックスオフィスにてチケットお取り扱いのある公演(取扱いのない券種もございます)

東京芸術劇場
ボックスオフィス 0570-010-296

※プログラム、出演者等に変更が出る場合がございます。最新情報は、各お問合せ先までご確認ください。

休館日 | 10日(月)・24日(月)

東京芸術劇場ホームページ www.geigeki.jp

※原則未就学児のご入場はお断りしています。

コントラバス(Cb)ノベース(Ba)ノハーブ(Hp)ノフルート(Fl)ノクラリネット(Cl)ノオーボエ(Ob)ノファゴット(Fg)ノサクソフォーン(Sax)ノホルン(Hr)ノトランペット(Tp)ノトロンボーン(Tb)ノチューバ(Tub)ノユーフォニアム(Euph)ノティンパニ(Timp)ノパーカッション(Per)ノドラムス(Dr)

K 19日(水) 19:00開演

交声曲「海道東征」

出演 大井剛史(Cond)／幸田浩子(S)／盛田麻矢(S)／
田村由貴絵(A)／小原啓楼(T)／原田圭(Br)
栗友会／杉並児童合唱団／東京フィルハーモニー交響楽団
曲目 シベリウス／交響詩『フィンランディア』
大栗裕／管弦楽のための「神話」～天の岩屋戸の物語による～
信時潔／交声曲『海道東征』
料金 S:8,000円／A:7,000円
問合 東京音協 03-5774-3030

L 20日(木) 18:30開演

藤澤ノリマサ シンフォニック・コンサート

出演 藤野浩一(Cond)／藤澤ノリマサ(Vo)／斉藤聡(Pf)／
クリス・シルバースタイン(Ba)／スコット・レイサム(Dr)／
東京ニューシティ管弦楽団
曲目 希望の歌～交響曲第九番～
何でもいいのさ～to tell you the truth～
愛の挨拶～夜間に星を散りばめて～ ほか アルバム「MESSAGE」より
料金 S:8,000円／A:6,500円／B:5,000円
問合 キョードー東京 0570-550-799

M 21日(金) 19:00開演

読売日本交響楽団 第601回名曲シリーズ

出演 サッシャ・ゲッツェル(Cond)／
ユリアンナ・アヴデーエフ(Pf)／読売日本交響楽団
曲目 ウェーバー／歌劇『魔弾の射手』序曲
グリーグ／ピアノ協奏曲
ドヴォルザーク／交響曲第7番
料金 S:7,500円／A:6,500円／B:5,500円／C:4,000円
問合 読響チケットセンター 0570-00-4390

B 30日(日) 15:30開演

としま区民芸術祭
第30回 としま能の会

解説 観世喜正
出演 宝生流 仕舞「鶴」／亀井雄二
和泉流 狂言「茸」／野村万蔵・野村萬
観世流 能「土蜘蛛」／観世喜正
料金 【全席指定】S:4,000円／A:3,500円／学生S:2,000円／学生A:1,500円 問合 としまチケットセンター 03-5391-0516

Playhouse

A 9日(日)～28日(金) ※7日(金)・8日(土) プレビュー公演

「ハムレット」

作 ウィリアム・シェイクスピア 翻訳 松岡和子 上演台本 ジョン・ケアード／今井麻緒子
演出 ジョン・ケアード 音楽・演奏 藤原道山 ※4/16(日)13:00、4/22(土)13:00・19:00、4/23(日)13:00を除く
出演 内野聖陽／貫地谷しほり／北村有起哉／加藤和樹／山口馬木也／今拓哉／
壤晴彦／村井國夫／浅野ゆう子／國村隼 ほか
料金 S:9,000円／ステージサイドシート:8,500円／A:7,000円／65歳以下(S):7,500円／25歳以下(A):3,000円／高校生割引(対象日限定):1,000円
<プレビュー公演>S:8,000円／ステージサイドシート:7,500円／A:6,000円／65歳以上(S):7,000円／25歳以下(A):2,500円 問合 東京芸術劇場ボックスオフィス 0570-010-296



※65歳以上、25歳以下、高校生割引チケットは、劇場ボックスオフィスにて前売のみ取扱い。
(枚数限定・要証明書) ※ステージサイドシートは舞台上に設けられる席です。 ※ステージサイ
ドシート及び、25歳以下割引は座席をお選びいただけません。また演出の都合により見えにくい
場面が発生する場合がございます。あらかじめご了承ください。

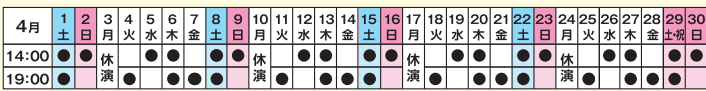
Theatre East

A ~4月30日(日)

「不信～彼女が嘘をつく理由」

作・演出 三谷幸喜 出演 段田安則／優香／栗原英雄／戸田恵子
料金 【全席指定】9,000円／U-25チケット(※):6,000円 問合 パルコステージ 03-3477-5858

※U-25チケットは観劇時25歳以下対象、当日指定席券引換、要証明書／
チケットびあ、パルステ!にて前売販売のみの取扱い。



Theatre West

A 1日(土)・2日(日)

「素晴らしい人生のための方程式」

作 ヒューイ・ロッキフィールド
演出 伊藤清
出演 樋口紀子／小川亜矢 ほか
料金 【全席自由】前売当日:3,000円
問合 サンクアソシエイツ 03-3505-3104



B 5日(水)～9日(日)

「Yé 一夜一」

脚本・演出 ほさかよう(空想組曲)
出演 北村諒／松村龍之介／谷口賢志 ほか
料金 【全席指定】前売:7,800円／
当日:8,300円／
プレミアムシート:9,800円／
学生:3,900円
問合 Zu々(ずう) 03-3388-1477



※15歳未満入場不可

C 13日(木)～16日(日)

チーズtheater第三回公演
「THE VOICE」

脚本・演出 戸田彬弘
出演 田谷野亮／大浦千佳 ほか
料金 【全席指定】前売:4,500円／
当日:4,800円
問合 チーズtheater 090-3090-4515



D 18日(火)～23日(日)

悪い芝居 vol.19「罨々」

作・演出 山崎彬 音楽 岡田太郎
出演 東直輝／植田順平／川人早貴／北岸淳生／長南洸生／中西柚貴／
野村麻衣／畑中華香／松尾佑一郎／山崎彬／渡邊りょう ほか
料金 【全席指定】前売一般:3,900円／前売U25(25歳以下):3,000円
高校生以下:2,000円
問合 悪い芝居 090-3941-1481



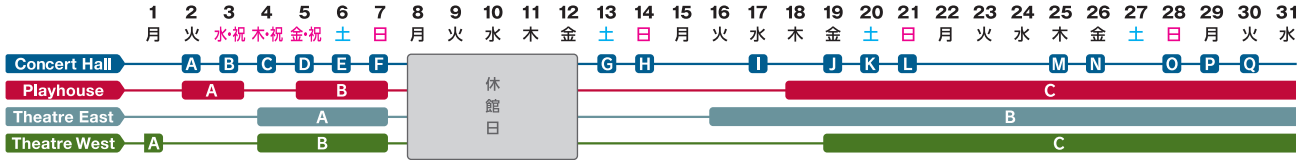
E 27日(木)～5月1日(月)

演劇企画CRANQ 5th STAGE「デッド・ビート・ダッド!」

作・演出 佐藤秀一
出演 吉田ボイス／白石稔／松崎亜希子 ほか
料金 【全席指定】前売:4,800円／当日:5,500円
問合 演劇企画CRANQ 070-1432-7482



5 MAY



Concert Hall 音楽略号:指揮(Cond)/ソプラノ(S)/メソソプラノ(Ms)/アルト(A)/テノール(T)/バリトン(Br)/バス(Bs)/コーラス(Chor)/ピアノ(Pf)/チェンバロ(Cemb)/オルガン(Org)/ヴァイオリン(Vn)/ヴィオラ(Va)/チェロ(Vc)/

BOX 東京芸術劇場ボックスオフィスにてチケットお取り扱いのある公演(取扱いのない券種もございます)

東京芸術劇場ボックスオフィス 0570-010-296

休館日を除く 10:00~19:00

※プログラム、出演者等に変更が出る場合がございます。最新情報は、各お問合せ先までご確認ください。

休館日 | 8日(月)~12日(金)
東京芸術劇場ホームページ www.geigeki.jp
※原則未就学児のご入場はお断りしています。

A 2日(火) Closed・関係者のみ

豊島区立小・中学校音楽鑑賞教室

B 3日(水・祝) 14:00開演 BOX

ウィーン少年合唱団

出演 ルイス・ディ・ゴドイ(カベルマイスター)/ウィーン少年合唱団
曲目 J.シュトラウスII/皇帝円舞曲
岡野貞一/ふるさと ほか
料金 S:7,500円/A:6,000円/B:4,500円
問合せ ジャパン・アーツびあ 03-5774-3040

C 4日(木・祝) 17:30開演 BOX

ボンクリ・フェス2017
スペシャル・コンサート

出演 アンサンブル・ノマド(指揮:佐藤紀雄)/伶楽舎
クレア・チェイス(Ft)/ヤン・バング(エレクトロニクス)/
ニルス・ベッター・モルヴェル(Tp)/小林沙羅(S)/
大友良英(ターンテーブル)/藤倉大(エレクトロニクス)
サウンドデザイン:永見竜生(Nagie)
曲目 デヴィッド・シルヴァン&藤倉大/
Five Lines (ライブ版)
The Last Days of December (ライブ版)
坂本龍一/3つのトライアングルのための作品 (ライブ版)
武満徹/『秋庭歌一具』より第4曲「秋庭歌」
「秋庭歌」ライブ・リミックス
ブルーノ・マテルナ/ひとつの衛星のためのセレナータ
大友良英/新作
坂本龍一(藤倉大編曲)/
thatness and thereness (アンサンブル版)
藤倉大/フルート協奏曲 (アンサンブル版)
料金 S:3,000円/A:2,000円
問合せ 東京芸術劇場ボックスオフィス 0570-010-296

D 5日(金・祝) 15:00開演

東京六大学混声合唱連盟
第59回定期演奏会

出演 相澤直人(Cond)/名田綾子(Pf)/小田裕之(Pf)/
東京大学柏葉会合唱団/早稲田大学混声合唱団/
慶應義塾大学混声合唱団楽友会/明治大学混声合唱団/
法政大学アカデミー合唱団/
青山学院大学グリーンハーモニー合唱団
曲目 混声合唱とピアノ連弾のための「手から、手へ」
料金 【全席指定】1,000円
問合せ 東京六大学混声合唱連盟 090-2422-4310

E 6日(土) 16:30開演

第66回 東京六大学合唱連盟定期演奏会

出演 連沼喜文、大久保光哉、田中豊輝、有村祐輔、中島龍之介、
佐藤賢太郎、雨森文也(Cond)/法政大学アリオンコール/
慶應義塾ワグネル・ソサィエティー男声合唱団/
立教大学グリークラブ/
東京大学音楽部合唱団コールアカデミー/
早稲田大学グリークラブ/明治大学グリークラブ
曲目 六大学合同演奏ステージ
作詞 宮澤賢治・作曲 西村朗/
同声(女声または男声)三部合唱とピアノのための組曲
『永訣の朝』 ほか
料金 S:2,500円/A:2,000円/B:1,000円
問合せ 東京六大学合唱連盟 rokuren_ticket66@yahoo.co.jp

F 7日(日) 14:00開演 BOX

豊島区吹奏楽団 第41回定期演奏会

出演 大釜宏之(Cond)/駒井ゆり子(S)/磯地美樹(Ms)/
岡本泰寛(T)/野村光洋(Br)/豊島区吹奏楽団
曲目 ホルジンガー/スクーティン・オン・ハードロック
ウェーバー/オペラ座の怪人
ムソルグスキー/禿山の一夜(原典版)
ベートーヴェン/交響曲第9番「合唱付」
料金 【前売】一般:1,000円/中学生以下:500円
【当日】一般:1,200円/中学生以下:700円
問合せ 広報担当 090-5508-7444

G 13日(土) 14:00開演 BOX

読売日本交響楽団
第197回土曜マチネーシリーズ

出演 オンドレイ・レナルト(Cond)/ケイト・リウ(Pf)/読売日本交響楽団
曲目 ショパン/ピアノ協奏曲第1番
ベートーヴェン/交響曲第3番「英雄」
料金 S:7,500円/A:5,500円/B:4,500円/C:4,000円
問合せ 読響チケットセンター 0570-00-4390

H 14日(日) 14:00開演 BOX

読売日本交響楽団
第197回日曜マチネーシリーズ

出演 オンドレイ・レナルト(Cond)/ケイト・リウ(Pf)/読売日本交響楽団
曲目 ショパン/ピアノ協奏曲第1番
ベートーヴェン/交響曲第3番「英雄」
料金 S:7,500円/A:5,500円/B:4,500円/C:4,000円
問合せ 読響チケットセンター 0570-00-4390

I 17日(水) 19:00開演

チョ・ソンジン ピアノ・リサイタル

出演 チョ・ソンジン(Pf)
曲目 ドビュッシー/『子供の領分』
『ベルガマスク組曲』、喜びの島
ショパン/バラード(全4曲)
料金 S:6,400円/A:5,400円/B:4,300円
問合せ ジャパン・アーツびあ 03-5774-3040

J 19日(金) 19:00開演 BOX

読売日本交響楽団
第568回定期演奏会

出演 ゲンナジー・ロジェストヴェンスキー(Cond)/
読売日本交響楽団
曲目 ブルックナー/交響曲第5番(シャルク版)
料金 S:7,500円/A:6,500円/B:5,500円/C:4,000円
問合せ 読響チケットセンター 0570-00-4390

K 20日(土) 18:00開演 BOX

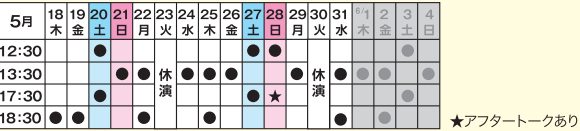
海外オーケストラシリーズ
エサ=ベッカ・サロネン指揮
フィルハーモニア管弦楽団

出演 エサ=ベッカ・サロネン(Cond)/
諏訪内晶子(Vn)/フィルハーモニア管弦楽団
曲目 R.シュトラウス/交響詩『ドン・ファン』
メンデルスゾーン/ヴァイオリン協奏曲
R.シュトラウス/交響詩『ツァラトゥストラはかく語りき』
料金 S:24,000円/A:19,000円/B:14,000円/
C:9,000円/学生S:5,000円
問合せ ジャパン・アーツびあ 03-5774-3040

G 18日(木)~6月4日(日) BOX

ミュージカル「パレード」

作 アルフレッド・ウーリー
演出 森新太郎
出演 石丸幹二/堀内敬子/武田真治/新納慎也/安崎求/未来優希/小野田龍之介/坂元健児/藤木孝/石川禅/岡本健一 ほか
料金 S:13,000円/サイドシート:8,500円/U-25(25歳以下当日引換券):5,000円/高校生割引:1,000円
※U25チケット:25歳以下対象、当日指定席券引換、要身分証明書(前売販売のみの取扱い)
※高校生割引は東京芸術劇場ボックスオフィスにて前売のみ取扱い(枚数限定・要証明書)
問合せ ホリプロチケットセンター 03-3490-4949



★アフタートークあり

A 2日(火)・3日(水・祝) BOX

芸術dance
ローザス「ファーズーFase」

振付 アンヌ・テレサ・ドゥ・ケースマイケル
音楽 スティーヴ・ライヒ(録音)
出演 アンヌ・テレサ・ドゥ・ケースマイケル/ターレ・ドルヴェン
料金 【全席指定】S:5,500円/A:4,500円/
高校生割引:1,000円/25歳以下(A):3,000円/
65歳以上(S):5,000円
※高校生割引、25歳以下、65歳以上チケットは東京芸術劇場ボックスオフィスにて
前売のみ取扱い(枚数限定・要証明書)
問合せ 東京芸術劇場ボックスオフィス 0570-010-296

B 5日(金・祝)~7日(日) BOX

芸術dance
ローザス&イクトゥス
「時の渦—Vortex Temporum(ヴォルテックス・テンポラム)」

振付 アンヌ・テレサ・ドゥ・ケースマイケル
音楽 ジェラルド・グリゼー『時の渦(ヴォルテックス・テンポラム)』
出演 ローザス・ダンサーズ 演奏 アンサンブル・イクトゥス
料金 【全席指定】S:5,500円/A:4,500円/
高校生割引:1,000円/25歳以下(A):3,000円/65歳以上(S):5,000円
※高校生割引、25歳以下、65歳以上チケットは東京芸術劇場ボックスオフィスにて
前売のみ取扱い(枚数限定・要証明書)
問合せ 東京芸術劇場ボックスオフィス 0570-010-296

A 4日(木・祝)~7日(日) BOX

TACT/FESTIVAL2017
フィンランドのソロパフォーマンス「ピアニスト」

作 シルコ・アエレオ/トム・モンクトン 出演 コートニー・スティーヴンス
料金 【全席自由】大人:2,000円/こども(高校生以下):1,000円/未就学児:500円
<2演目セット券>大人:3,500円/こども:1,500円(前売のみ)
問合せ 東京芸術劇場ボックスオフィス 0570-010-296

A ~1日(月) 15:00開演

演劇企画CRANQ 5th STAGE「デッド・ビート・ダッド!」

作・演出 佐藤秀一
出演 吉田ボイス/白石稔/松崎亜希子 ほか
料金 【全席指定】前売:4,800円/当日:5,500円
問合せ 演劇企画CRANQ 070-1432-7482

B 4日(木・祝)~7日(日) BOX

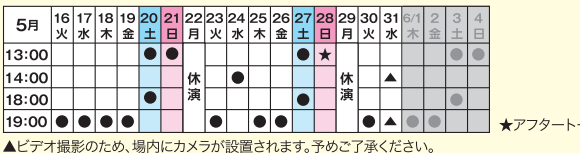
TACT/FESTIVAL2017
バリ島の仮面舞踊と影絵芝居「月と太陽 -Eclipse-」

作 カデック・チャプン
出演 カデック・チャプン ほか
料金 【全席自由】大人:2,000円/こども(高校生以下):1,000円/未就学児:500円
<2演目セット券>大人:3,500円/こども:1,500円(前売のみ)
問合せ 東京芸術劇場ボックスオフィス 0570-010-296

B 16日(火)~6月4日(日) BOX

イクウメ「天の敵」

作・演出 前川知大
出演 浜田信也、安井順平、盛隆二、森下創、大窪人衛/
小野ゆり子、太田緑口ランズ、松澤傑、有川マコト、村岡希美
料金 前売:4,800円/当日:5,000円
問合せ イクウメ 03-3715-0940



★アフタートークあり

▲ビデオ撮影のため、場内にカメラが設置されます。予めご了承ください。

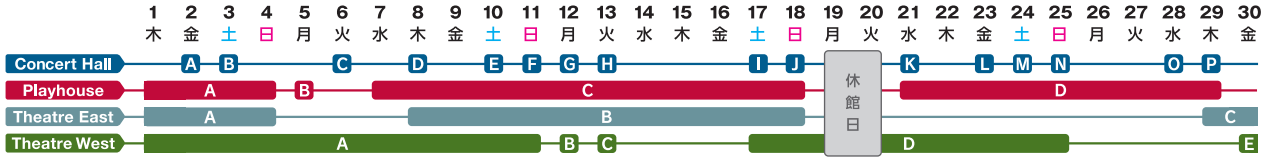
C 19日(金)~6月11日(日) BOX

「クヒオ大佐の妻」

作・演出 吉田大八
出演 宮沢りえ/岩井秀人/川面千晶/水澤紳吾
料金 【全席指定】前売:7,600円/当日:8,000円
問合せ サンライズプロモーション東京 0570-00-3337



6 JUN



Concert Hall

音楽略号:指揮 (Cond) / ソプラノ (S) / メソソプラノ (Ms) / アルト (A) / テノール (T) / バリトン (B) / バス (Bs) / ヴォーカル (Vo) / ピアノ (Pf) / オルガン (Org) / キーボード (Key) / ヴァイオリン (Vn) / ヴィオラ (Va) / チェロ (Vc) / コントラバス (Cb) / ギター (Gt) /

A 2日(金) 19:00開演

陸上自衛隊中央音楽隊 第151回定期演奏会

出演 中央音楽隊長(Cond) / 松永美智子(S) / 陸上自衛隊中央音楽隊
曲目 チェザリーニ / 交響曲第1番「アーケエンジェルス」
柳田朕之扶 / ソプラノと吹奏楽の為の映像(世界初演)
料金 無料(要インターネットによる事前申込)
問合せ 陸上自衛隊中央音楽隊 048-460-1711

B 3日(土) 14:00開演

NTT東日本東京吹奏楽団 第50回記念定期演奏会

曲目 ショスタコーヴィチ / 祝典序曲
R.ジェイガー / シンフォニア・ノビシマ
天野正道 / カプレティとモンテッキ
忠臣蔵異聞 ほか
料金 【全席指定】無料(要発券手数料、事前申込制)
問合せ NTT東京福祉文化事業団「ゆいの会」 03-6712-8803

C 6日(火) 18:30開演

東京ニューシティ管弦楽団 第112回定期演奏会
「The SOUND of SHIMAKEN」vol.Ⅱ
～映画とJAZZとオーケストラと～

出演 島健(Cond, Pf) / 森山良子(Vo) / 山崎まさよし(Vo) / 須川展也(Sax)
曲目 Cavatina(カヴァティーナ)
New Cinema Paradise(ニューシネマパラダイス)
Hurricane(ハリケーン)
People(ピープル)
One more time, One more chance(ワンモアタイム, ワンモアチャンス)
料金 S: 8,000円 / A: 6,500円 / B: 5,000円 / C: 4,000円
問合せ サンライズプロモーション東京 0570-00-3337

Playhouse

A ~4日(日) BOX

ミュージカル「バレード」

作 アルフレッド・ウーリー
演出 森新太郎
出演 石丸幹二 / 堀内敬子 / 武田真治 / 新納慎也 / 安崎求 / 未来優希 / 小野田龍之介 / 坂元健児 / 藤木孝 / 石川禅 / 岡本健一 ほか
料金 S: 13,000円 / サイドシート: 8,500円 / U-25(25歳以下当日引換券): 5,000円 / 高校生割引: 1,000円
※U25チケット: 25歳以下対象、当日指定席券引換、要身分証明書(前売販売のみの取扱い)
※高校生割引は東京芸術劇場ボックスオフィスにて前売のみ取扱い(枚数限定、要証明書)
問合せ ホリプロチケットセンター 03-3490-4949

6月	1 木	2 金	3 土	4 日
12:30			●	
13:30	●		●	●
17:30				
18:30	●		●	

B 5日(月) 18:00開演

岸本悟明リサイタル

演出 アン・あんどろ
出演 岸本悟明
演奏 上條泉グループ: 上條泉(Pf) / 山口じゅん(Ba) / 八木秀樹(Dr) / 猪狩雅生(Key)
料金 【全席指定】S: 6,000円 / A: 5,000円(2F後方列自由)
問合せ スタジオGomei 03-3827-7732

BOX 東京芸術劇場ボックスオフィスにてチケットお取り扱いのある公演(取扱いのない券種もございます)

東京芸術劇場
ボックスオフィス 0570-010-296

※プログラム、出演者等に変更が出る場合がございます。最新情報は、各お問合せ先までご確認ください。

休館日 | 19日(月)・20日(火)
東京芸術劇場ホームページ www.geigeki.jp

※原則未就学児のご入場はお断りしています。

ベース (Ba) / ハープ (Hp) / フルート (Fl) / クラリネット (Cl) / オーボエ (Ob) / ファゴット (Fg) / サクソフォーン (Sax) / ホルン (Hr) / トランペット (Tp) / トロンボーン (Tb) / チューバ (Tub) / ユーフォニアム (Euph) / テンバニ (Timp) / ドラムス (Dr) / パーカッション (Per) / アコーディオン (Acc)

J 18日(日) 14:00開演 BOX

読売日本交響楽団
第198回日曜マチネーシリーズ

出演 シモーネ・ヤング(Cond) / ネマニヤ・ラドゥロヴィチ(Vn) / 読売日本交響楽団
曲目 ワーグナー / 歌劇『さまよえるオランダ人』序曲
ブルッフ / ヴァイオリン協奏曲第1番
ブラームス / 交響曲第2番
料金 S: 7,500円 / A: 5,500円 / B: 4,500円 / C: 4,000円
問合せ 読響チケットセンター 0570-00-4390

K 21日(水) 14:00開演 BOX

東京都交響楽団 第834回定期演奏会

出演 大野和士(Cond) / ロジェ・ムラロ(Pf) / 東京都交響楽団
曲目 ドビュッシー / 牧神の午後への前奏曲
タンディ / フランスの山人の歌による交響曲
ベートーヴェン / 交響曲第6番「田園」
料金 S: 7,500円 / A: 6,500円 / B: 5,500円 / C: 4,500円 / Ex: 3,500円
問合せ 都響ガイド 03-3822-0727

L 23日(金) 19:00開演 BOX

立教大学交響楽団 東京演奏会

出演 海老原光(Cond) / 立教大学交響楽団
曲目 トヴォルザーク / 交響曲第7番
リスト / 「前奏曲」または「ブラームス」 / 「悲劇的序曲」
料金 S: 1,500円 / A: 1,000円 / 車椅子席: 1,000円
問合せ 立教大学交響楽団 080-6501-0137

M 24日(土) 18:00開演 BOX

読売日本交響楽団
第569回定期演奏会

出演 シモーネ・ヤング(Cond) / ベフゾド・アブドゥライモフ(Pf) / 読売日本交響楽団
曲目 プロコフィエフ / ピアノ協奏曲第3番
R.シュトラウス / アルプス交響曲
料金 S: 7,500円 / A: 6,500円 / B: 5,500円 / C: 4,000円
問合せ 読響チケットセンター 0570-00-4390

N 25日(日) 13:00開演

豊島区商店街連合会創立65周年記念事業
東京マンドリン宮田楽団100周年記念定期演奏会

出演 坂本和彦(Cond) / 荘村清志(Gt) / 宮田蝶子(マンドリン) / 東京マンドリン宮田楽団
曲目 チャイコフスキー / 「くるき割り人形」より「トレバック」「行進曲」「花のワルツ」
武蔵野の秋
日本の四季
料金 S: 2,000円 / A: 1,000円
問合せ 豊島区商店街連合会 03-3981-5445

O 28日(水) 11:00開演 BOX

芸劇ブランチコンサート
～清水和音の名曲ラウンジ～
第8回「パッパに心酔」

出演 アンサンブル・サンセリテ
【竹山愛(Fl) / 大江馨(Vn) / 藤江扶紀(Vn) / 佐々木亮(Va) / 富岡廉太郎(Vc) / 西山真二(Cb) / 清水和音(Pf)】
八塩圭子(ナビゲーター)
曲目 J.S.パッパ / 管弦楽組曲第2番
ブランドンブルク協奏曲第5番
《和音・今月の一曲》チャイコフスキー / 『四季』より舟歌
料金 【全席指定】2,200円
問合せ サンライズプロモーション東京 0570-00-3337

P 29日(木) 19:30開演 BOX

ナイトタイム・パイプオルガンコンサート
Vol.18

出演 ジャン＝フィリップ・メルカルルト(Org) / 玉井菜採(Vn)
料金 【全席指定】1,000円
問合せ 東京芸術劇場ボックスオフィス 0570-010-296

Theatre East

A ~4日(日) BOX

イクウメ「天の敵」

作・演出 前川知大
出演 浜田信也、安井順平、盛隆二、森下創、大窪人衛 / 小野ゆり子、太田緑口ランス、松澤傑、有川マコト、村岡希美
料金 前売: 4,800円 / 当日: 5,000円
問合せ イクウメ 03-3715-0940

6月	1 木	2 金	3 土	4 日
13:00			●	●
18:00			●	
19:00	●	●	●	●

B 8日(木)~18日(日) BOX

FUKAIPRODUCE羽衣「愛死に」

プロデュース 深井順子 作・演出・音楽 糸井幸之介
出演 深井順子 / 鯉和鮎美 / 高橋義和 / 澤田慎司 / キムユス / 新部聖子 / 岡本陽介 / 浅川千絵 / 平井寛人
(以上、FUKAIPRODUCE羽衣)
伊藤昌子 / 柳原毅 / 野上絹代(FAIFAI/3月企画) / 山森太輔(文学座) / 荒木知佳
料金 【全席指定】前売: 3,800円 / 当日4,000円 / 前半日程割引: 3,500円 / U-25: 2,500円 / さいふにやさシート: 2,000円
問合せ FUKAIPRODUCE羽衣 080-7062-7822

6月	8 木	9 金	10 土	11 日	12 月	13 火	14 水	15 木	16 金	17 土	18 日
14:00			●	●				●	●	●	●
19:00	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●

C 29日(木)~7月9日(日)

創立75周年記念第2弾
劇団文化座公演149「故郷」

脚本 水上勉 作 八木柊一郎 演出 黒岩亮 / 鈴木完一郎
出演 阿部敦子 / 佐藤哲也 / 伊藤勉 / 有賀ひろみ / 阿部勉 / 津田二郎 / 酒井美智子 / 高村尚枝 / 鳴海宏明 / 沖永正志 / 小谷佳加 / 白幡大介 / 滝澤まどか / 水原葵 / 皆川和彦 / 兼元菜見子 / 佐々木愛 / 嵐圭史 (客演) ほか
料金 【全席指定】一般: 5,500円 / Uシート(平日夜公演のみ): 4,000円 / 高校生以下: 3,000円
問合せ 劇団文化座 03-3828-2216

6月	29 木	30 金	1 土	2 日	3 月	4 火	5 水	6 木	7 金	8 土	9 日
14:00	●										
19:00	●										

☆=スペシャル割: 4,500円

D 21日(水)~29日(木) BOX

日中国交正常化45周年記念
京劇「楊門女将2017」
天津京劇院日本公演

主演 王艶(ワン・イエン) / 穆桂英役(国家一级俳優)
演奏 天津京劇院
料金 【全席指定】8,800円
問合せ 京劇公演事務局(楽戯舎) 03-5281-8066

6月	21 水	22 木	23 金	24 土	25 日	26 月	27 火	28 水	29 木
13:00				●	●				
13:30		●	●	●	●			●	●
17:00				●	●			●	●
19:00	●			●	●			●	●

Theatre West

A ~11日(日) BOX

「クヒオ大佐の妻」

作・演出 吉田大八
出演 宮沢りえ / 岩井秀人 / 川面千晶 / 水澤紳吾
料金 【全席指定】前売: 7,600円 / 当日: 8,000円
問合せ サンライズプロモーション東京 0570-00-3337

6月	1 木	2 金	3 土	4 日	5 月	6 火	7 水	8 木	9 金	10 土	11 日
14:00	●	●	●	●	休 演		●	●	●	●	●
19:00	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●

B 12日(月) 13:00開演

京葉旭会第7回筑前琵琶演奏会

出演 ゲスト: 田中錦煌 / 上原まり(柴田旭鮎)
コラボレーション: 小林真梨恵(コンテンポラリー) / マクイーン時田深山(琴)
料金 【全席自由】2,000円
問合せ 筑前琵琶京葉旭会事務所 03-3957-7432

C 13日(火) 19:30開演

中島淳一 一人演劇「ハムレット」

脚本・演出・出演 中島淳一
料金 【全席自由】前売: 3,000円 / 当日: 3,500円
問合せ 劇団エーテル 092-883-8249

D 17日(土)~25日(日) BOX

カムカムミニキーナ2017本公演
「狼狽(ロウバイ)~不透明な群像劇~」

脚本・演出 松村武
出演 八嶋智人 / 藤田記子 / 吉田晋一 / 長谷部洋子 / 田原靖子 / 亀岡孝洋 / 未来 / 菊川耕太郎 / 渡邊礼 / 柴治郎 / 元尾裕介 / 福久聡吾 / 大倉杏葉 / 柳瀬芽美 / 松村武 / 姜暲雄 / 新谷真弓(ナイロン100℃) / 多田香織(KAKUTA) / 芹井祐文
料金 【全席指定】5,500円 / スペシャル割: 4,500円 問合せ カムカムミニキーナ 090-6328-1076

6月	17 土	18 日	19 月	20 火	21 水	22 木	23 金	24 土	25 日
12:30	●							●	●
14:00			休 演	☆					
17:00	☆	☆	休 演		☆		☆		
19:00	●	●	●	●	●	●	●	●	●

E 30日(金)~7月1日(土)

平成29年度都立総合芸術高等学校
舞台表現科成果発表会(第6回定期公演)
演劇専攻「夏の夜の夢」

作 シェイクスピア
訳 小田島雄志
出演 演劇専攻3年生
料金 入場無料(事前予約)
問合せ 東京都立総合芸術高等学校舞台表現科 03-3354-5288

6月	30 金	1 土
12:30		●
16:00		●
18:30	●	

4・5・6

APR MAY JUN

東京芸術劇場ホームページ www.geigeki.jp

Gallery 1 (5F)			
4	1日(土)～2日(日) 池坊 東京竹支部 創立95周年 記念花展 問合せ 岡崎 090-1048-3337	5日(水)～9日(日) 一人の母親が描いた台湾 李素貞創作油絵個展 問合せ フリージアグループ企画室 関口 03-6635-1777	12日(水)～16日(日) 第19回 巧技ソサエティー美術展 問合せ 浅賀 03-3393-0168
		18日(火)～23日(日) Gallery 1・2 Atelier East・West同時開催 水墨画・水彩画公募 〈日本の美しい自然〉 問合せ 元浜 03-3970-7566	25日(火)～29日(土・祝) 第27回豊島芸術書展 問合せ 平塚 03-3946-8425
5	1日(月)～7日(日) 第8回 monochrome展 問合せ 片桐 03-5952-9333	13日(土)～16日(火) 第34回 日本芸術協会美術展 問合せ 早川 0463-32-1029	18日(木)～24日(水) 第12回新池袋モンパルナス西口まちかど 回遊美術館「ぼくらのアトム展」 問合せ 新池袋モンパルナス西口まちかど回遊美術館 実行委員会事務局 03-3981-4732
		26日(金)～31日(水) 第12回新池袋モンパルナス西口まちかど 回遊美術館[IG AWARD 2017 EXHIBITION] by 池袋アートギャザリング 問合せ 新池袋モンパルナス西口まちかど回遊美術館 実行委員会事務局 03-3981-4732	
6	2日(金)～6日(火)※4日(日)を除く 子どもの力 図書館のためのブックフェア2017 問合せ 知念 03-3288-5051	8日(木)～11日(日) 藤田久美子「キルターズスタジオ」 パッチワークキルト展 問合せ 藤田 03-3379-0168	13日(火)～18日(日) Gallery 1・2 同時開催 第46回 鳴鶴流天溪会書道展 問合せ 川村 090-8720-4872
		22日(木)～25日(日) 第6回 よみうり美術展 問合せ よみうり美術展事務局(担当:郷持) 03-3642-4301	27日(火)～7月2日(日) 第6回 東精協心のアート展 問合せ 一般社団法人東京精神科病院協会 042-352-0541
Gallery 2 (5F)			
4	18日(火)～23日(日) Gallery 1・2 Atelier East・West同時開催 水墨画・水彩画公募 〈日本の美しい自然〉 問合せ 元浜 03-3970-7566		
5	4日(木・祝)～7日(日) 細野日本刺繍教室作品展 問合せ 細野 03-6760-3453	18日(木)～31日(水) 第12回新池袋モンパルナス西口まちかど 回遊美術館[IG セレクション 大作展] by 池袋アートギャザリング 問合せ 新池袋モンパルナス西口まちかど回遊美術館 実行委員会事務局 03-3981-4732	
6	1日(木)～6日(火) 工芸六人展 問合せ 山本 049-245-3318	10日(土)～11日(日) 子どもの本・九条の会 9周年の集い 料金 有料(予定) 問合せ 二宮 03-3417-6301	13日(火)～18日(日) Gallery 1・2 同時開催 第46回 鳴鶴流天溪会書道展 問合せ 川村 090-8720-4872
Atelier East (B1F)			
4	3月27日(月)～2日(日) AZ写真展「能楽写真事始めⅡ」 問合せ 東 080-5182-8028	4日(火)～9日(日) 書のとぎめき 井上一光出版記念展 書の古典から音楽の古典へ!! 問合せ 21世紀書画作家国際交流協会 092-751-9350	11日(火)～16日(日) 全国平成水墨画小品展 問合せ 千葉 048-463-0467
		18日(火)～23日(日) Gallery 1・2 Atelier East・West同時開催 水墨画・水彩画公募 〈日本の美しい自然〉 問合せ 元浜 03-3970-7566	26日(水)～29日(土・祝) 第12回「もっ帯(たい)ない」展 問合せ 鈴木 090-3691-0055
5	13日(土)～18日(木) 第4回グループ「翠」6人展 (私の心に響く自然) 問合せ 斎藤 03-3959-7821	19日(金)～21日(日) 第17回造形スタジオ・バル作品展 問合せ 長 03-3989-8608	22日(月)～27日(土) NAF展(油絵) 問合せ 藤島 090-8591-1861
		29日(月)～31日(水) 会津士魂・五十嵐天宗書展 問合せ 五十嵐 0242-25-3720	
6	1日(木)～6日(火) 第24回 翠曜会展(日本画) 問合せ 福島 03-3919-8138	7日(水)～11日(日) 三人の写真展「境界線」 問合せ 神山 090-7418-9048	12日(月)～18日(日) 月の会絵画展 問合せ 中村 03-3961-6876
		22日(木)～25日(日) 利根川秀佳書道教室展 問合せ 合屋 080-1012-0713	27日(火)～7月2日(日) 静山書会展 問合せ 津田 03-3915-5674
Atelier West (B1F)			
4	3月28日(火)～3日(月) 第44回伊藤熹朔賞 ファイナリスト舞台美術展 問合せ 日本舞台美術家協会 03-6300-9104	4日(火)～9日(日) 第八回豊彩会 問合せ 高橋 090-4121-3849	11日(火)～16日(日) 非戦の誓い 問合せ 平山 090-7004-2941
		18日(火)～23日(日) Gallery 1・2 Atelier East・West同時開催 水墨画・水彩画公募 〈日本の美しい自然〉 問合せ 元浜 03-3970-7566	27日(木)～29日(土・祝) いけばな小原流 東京支部北地区・埼玉地区花展 問合せ 奥住 03-3939-7702
5	13日(土)～16日(火) 第16回清泉会・清光会作品展 問合せ 文字 03-5950-1038	17日(水)～24日(水) 西村喜久子・小熊秀雄小品と 池袋モンパルナスの会 会員展 問合せ 小池 03-3971-6965	25日(木)～31日(水) 青森の銘木「樹幸」の世界展 問合せ 木工ショップ マルル 八木 090-4833-9229
6	1日(木)～6日(火) しずく撮影クラブ写真展 「しずくの魅力」 問合せ 佐治 042-596-1076	7日(水)～11日(日) 一会展 問合せ 長谷川 080-5172-1192	12日(月)～18日(日) 青板選抜2017・ Rainy Season 問合せ 青板会・米谷 047-391-0136/ 090-8566-7138
		22日(木)～25日(日) 第12回 光彩会展 問合せ 森脇 080-6546-7062	

東京芸術劇場ボックスオフィス 0570-010-296 (休館日を除く10:00～19:00)

第44回 伊藤熹朔賞ファイナリスト展 無 料

3月28日(火)～4月3日(月) アトリエウエスト 詳細はP15へ



2016年の展示より

舞台美術家の仕事をスケッチや模型で展示

日本で唯一の舞台美術専門の賞、今年も選びます。舞台美術における年間最優秀作品候補25点が全国から勢揃いします。スケッチ、舞台模型、衣裳デザイン画など、多数展示いたします。普段、触れる機会の少ない舞台美術家の仕事を覗きにいらしてください。

3/28(火) 13:00より最終選考会あり ※公開審査
【お問合せ】日本舞台美術家協会 03-6300-9104

集まれ!池袋みんなの大道芸 無 料

5月4日(木・祝)～7日(日) 劇場前広場 詳細はHPへ



知念大地

GWに一流のストリートパフォーマンスを劇場前広場で

今年もゴールデンウィークを皮切りに「集まれ!池袋みんなの大道芸」がスタート! 庄巻のアクロバット・パフォーマンス、コミカルなパントマイム、妖艶なマジック、自由に駆け回る長足のウォーキングアクト等、劇場前広場が大道芸で染まります。また、ボールやディアボロなどの大道芸の技を体験できる「チャレンジ広場」も同時開催します。

【お問合せ】東京芸術劇場 事業調整係 03-5391-2116

第12回 新池袋モンパルナス西口まちかど回遊美術館「ぼくらのアトム展」ほか 無 料

5月18日(木)～31日(水) ギャラリー1・2 詳細はP15へ



©Tezuka Productions
Created by Yu Uchida



2016年度「池袋アートギャザリング」より



2016年度「池袋アートギャザリング」より

鉄腕アトム × C-DEPOT

新池袋モンパルナス西口まちかど回遊美術館は、かつての池袋モンパルナスの精神を現代に受け継ぎ、官民学が連携して文化芸術資源を次世代に伝えていくことを目的としたアートイベントです。池袋駅西口一帯に点在する劇場、ギャラリー、店舗等にさまざまなアート作品が展示されます。

東京芸術劇場ギャラリー1では、SFマンガの傑作「鉄腕アトム」が連載開始65周年を迎えることを記念し、「アート＝多様性」を理念に掲げるアーティスト集団C-DEPOT(シーデポ)とのコラボレーション展「ぼくらのアトム展」が開催されます。

日本マンガ文化の源流として、あらゆる世代に愛されている「鉄腕アトム」

は、芸術性の高いエンターテインメントとして世界中に認知されてきました。アーティストたちの手によってオマージュされた「アトム × アート」をお楽しみください。

また、昨年も好評を博したまちかど回遊美術館「池袋アートギャザリング」も開催。

【お問合せ】新池袋モンパルナス西口まちかど回遊美術館実行委員会事務局
03-3981-4732

【URL】<http://www.kaiyu-art.net/>

現代サーカスに探る、身体表現の新たな可能性

今回のアイタイヒトは、2014年の初登場作品『リメディア』に続いて、

昨秋『ヨブの話—善き人のいわれなき受難』を東京芸術劇場で上演したカミーユ・ボワテル。

近年注目を集めるコンテンポラリー・サーカスのパフォーマーであり、

その優れた身体性と独創的かつユニークな作風で、本国フランスでも異彩を放つ存在だ。

野田芸術監督もそんなカミーユに刺激を受けたのか、本来の身体性を発揮。

撮影では、二人とも嬉々として脚立に上っていた。



「ヨブの話—善き人のいわれなき受難」より

時代を問わない“びっくり”

野田 あれはいつ頃だったかな？ カミーユさんとは、東京芸術劇場の稽古場でカミーユさんが一人でワークショップをしていた時に、初めて会ったんですね。フレンドリーではあるんだけど、創作の現場にいる人独特のセンシティブなものを感じて、このワークショップでやっていることが最終的にどういう形になっていくのか、俄然興味が湧きました。

カミーユ あのワークショップでは、まだ実際に作品になるかどうかかわからない、下地になる部分をあれこれ試していた感じです。一人でやっているの、なかなか進まなくて。

野田 ワークショップを一人でやる感覚っていうのは、どういうものなんですか？ 自分とずっと対話しながら作っている感じ？

カミーユ そうですね。どんよりと重くなる時と、弾けるような喜びを感じる時との、両方のバランスの上を歩いているような感じです。

野田 弾ける喜びを感じた時に一人っていうのは、結構寂しいだろうなあ。僕も台本を書いている時は一人だから身に覚えがあるんだけど、「いいもの書いたなあ」と思った時に一緒に喜んでくれる人がいないと、孤独を感じますよ(笑)。

カミーユ ええ、確かに(笑)。僕も、一人で消化できない感情に捉われることはありますね。

野田 固定カメラで自分のワークショップをビデオに撮って見るとか、そういうこともしているんですか？

カミーユ ビデオは減多に使わないですね。本当にもう、これはビデオがなくちゃダメだなという時だけ。僕はすごくアナログな人間なので。

野田 それは、この間の舞台『ヨブの話—善き人のいわれなき受難』を観て、よくわかりました(笑)。あの木製の柵みたいな架台を積み重ねたり、挟まったり、よじ登ったり、劇場のいろんなところから現れてみたり……。あれを面白がれる人だけを信じるな、俺は(笑)。

カミーユ ハハハ(笑)。前回の『リメディア』も観てくださったんですか？

野田 僕は、その頃ちょうど入れ違いでフランスに行っていたので、映像で見せてもらいました。でも、限られた予算の中でどういうプロダクションを海外から招聘するか？ という会議のメンバーだった、亡くなった扇田昭彦さんという演劇評論家がすごくカミーユさんの作品が好きで、絶対に呼びたいと思っていたんです。この『ヨブの話—善き人のいわれなき受難』は、カミーユさんのデビュー作だそうです。初演以来、封印していたと聞いていますが、今回どうして日本で上演しようと思ったんですか？

カミーユ 実は僕、この作品を初演した2003年に来日して、この作品をあちこちの劇場に売り込んでいます。当時は日本にほとんど知り合いがなくて、何のコネクションも無かったから、東京に1か月くらい滞在して色々な劇場に出かけて行ったんですが、どこも「すごく面白そうですね。ただ、もう少し時間をかけたほうがいいのでは？」という反応でした。それで今回、これをぜひ日本のお客さんに見せたい、どういう反応を示すんだろう？ と思っ

て、持ってきたんです。この作品は僕のベースとなっている作品でもありませんから。

野田 日本のお客さんは、可笑しくても声を出して笑うのを遠慮するところがあるかもしれないけど、積み上げられた架台が舞台上で倒れた瞬間、それまで笑うのを我慢していたような人まで「あっ！」とか声を上げてましたよね(笑)。僕はそれを見て、こういうライブならではの“危うさ”を持った面白いパフォーマンスは、時代が変わっていても続くんだろうなあと思ったんですよ。たとえばLEDが出てきた時のように、最新の技術を使っても人はびっくりするけど、そのびっくりはそう長くは続かない。しばらくすると最新の技術ではなくなっていたりするから。その点、カミーユさんの舞台の架台の倒れ方には、いつでもびっくりする。今ここでやってもびっくりしますよ、きっと。

フラジャイル アジャイル
キャッチコピーはfragile & agile!

野田 危うさと言えば、カミーユさんが劇場の中をあちこち使うのも危うさの一つでしょうね。身体的な危うさというよりも、そういう場所によって違う不確定なものに懸けてみようという、危うい精神を感じる(笑)。

カミーユ 僕の表現手段というか、これをやりたいと直感で思えるもの自体が、安定していないものなんです。“しっかりと固定されていない何か”が、私の表現のジャンルなんだと思います。

野田 そうか。危うくて壊れやすいものは英語でfragile(フラジャイル)で、それをカミーユさんは素晴らしい敏捷性=agile(アジャイル)で表現するから、言葉遊び的に言うとそのジャンルはfragile & agileだね(笑)。

カミーユ ナイス！ すごく素敵キャッチコピー！

野田 こういうものがもっと知れ渡るような場所と、チケットを売るためのシステムを、もうちょっと何とかしたいなあ。カミーユさんがやっていることはダンス系列のパフォーマンスに分類されるんだろうけど、ダンスが好きなお客さん以外が来ても十分に楽しめるものだと思うから、日本でももっと多くの人に観てもらいたいよね。

カミーユ 確かに僕の作品は、対象とするお客さんをあまり限定しないので、フランスでは結構色々な人が観に来てくれます。フランスでは、ヌーヴォー・シルク(コンテンポラリー・サーカス)というジャンル自体がよく知られていますし。ただ、僕がやっていることは、ヌーヴォー・シルクの中でもちょっと特殊なんだろうね(笑)。この僕が初めて創った作品らしき作品『ヨブの話—善き人のいわれなき受難』の初演当初は、お客さんが全然入らない時もありましたから。「何これ？」みたいな感じで(笑)。

野田 あの大きな鐘みたいな衣装のネタとか、笑ったけどなあ。どんなふう考えたものなんですか？ って俺、ネタって言っちゃってるけど(笑)

カミーユ あれは、自分でもすごく気に入ってるんです。僕がイメージした絵がまずあって、それがやれそうな小道具と衣装を色々組み合わせて実験しているうちに、ああいうものになりました。

野田 僕の場合は、台本を書く時以外は一人でものを創っているわけじゃな

いから、稽古場にいる人のリアクションとか様子が、ある程度の判断材料になるんだけど、一人の孤独な作業だと自分の判断を信じるしかないわけですね。相当な自信と不安があるんだろうなあ。

文化を越える“イメージの翻訳”

カミーユ そうですね。しかも僕の場合、そういう創作過程を経て最初に人に見せると必ず、いつも思ってもいない反応が返ってくるんですよ。あの鐘みたいな衣装のネタも、きっと大爆笑だろうと思って自信を持って見せたのに、最初はみんな怖がって凍りついてしまって。想像していた反応とあまりに違ったので、びっくりしました。

野田 えっ!? きっとフランスの人は最初から大爆笑したんだろうなと思ってたんだけど。この間、私の隣で観ていた7歳の娘や、フランス人の子ども達はゲラゲラ笑ってましたよ。

カミーユ 子ども達のそういう反応は大好きですね。感情がピーンと張りつめたようなその場の空気を、捻じ曲げてくれるから。

野田 ですね。ただ、途中でカミーユさんがフランス語でバーツとしゃべる場面で、娘に「何て言ってるの?」って聞かれた時は困りました。うーん、英語ならわかるんだけど……って答えながら、NODA・MAPのパリ公演*ではフランス語の字幕を出してたけど、どんなふうに翻訳されて、どういうふうに伝わっていたんだろう? ちゃんと通じてたのかなあ……って、今さらながら急に不安になったりして(苦笑)。同時に、ビジュアルと動きがあれば、言葉はわからなくても成立するんだなとも思ったけど。

カミーユ 大丈夫です。フランス人でも、僕があの場面でしゃべっていることが完全にわかる人はいませんから(笑)。

野田 そうか、やっぱりあれはデタラメ言葉だったんだ(笑)。

カミーユ はい。ただ、フランス語がわかる人なら、時々聞こえてくる単語を自分で拾って何かをイメージすることはできるようにしてあるので、本当は上演する国の人にわかる言葉でしゃべりたかったんですよね。上演国の言葉でやるのは好きですし、僕は日本語が好きだから。でも、言葉にならない音も含めて、ヘンテコなフランス語をヘンテコな日本語に置き換えることが、どうにも難しくて。

野田 なるほど。あの架台の束が、音を立てて車輪や蛇腹みたいに動く場面も面白かったなあ。舞台上の2つの赤い



「ヨブの話―善き人のいわれなき受難」より



ライトも生き物の目みたいで、僕は日本の神話に出てくる、カミーユさんが知らない“八岐大蛇”^{やまたのおろち}っていう化け物を勝手にイメージしたんですよ。

カミーユ あ、近いかも! 僕は聖書に出てくるリヴァイアサンとベモット(ベヒモス)という魔獣をイメージして、あのシーンを作ったので。ただそれは、あくまでも僕が散りばめた色々なストーリーの中の2つで、僕は意味を限定したくはないんです。作品を創るときは、言葉のリズムや音や色々な感覚をもとに、自分が思い描いたストーリーをたくさん詰め込みますが、意味が限定されることがないように、それを“開いて”提示する。材料だけ見せて、ご自由にどうぞという感じです。

野田 わかります。そうやって象徴的なものや記号的なもので表現されているからこそ、それを全然違う文化の中で育った人間が観ても、自分の文化の中でそう遠くないものにイメージを翻訳できるんだよね。そこが面白い。逆に、表現されているものが具体的で、はっきりした意味を持っているほど、文化が違うと“イメージの翻訳”ができなくなる。そもそもこういったパフォーマンスに意味を求めること自体、野暮だね。俺も年とともに、意味とか考えるようになってきちゃって、ダメだなあ(苦笑)。

ワークショップで出会いたい

野田 カミーユさんがこういうパフォーマンスを始めるきっかけは、何だったんですか?

カミーユ 子どもの頃にサーカスを観て、すごく魅せられたのがきっかけです。何歳だったかは、はっきり覚えてないんですけど。

野田 どこで観たんですか?

カミーユ ツールーズという大きな街の郊外にある小さな村。移動式のサーカスが来たんです。滅多にない機会だったので興奮しました。

野田 フランスのサーカスって、すごそうだな。僕も30年くらい前にパリかウィーンでサーカスを観て、すごく感動したことがあるんです。映画『ブリキの太鼓』みたいな感じで、強烈な印象を受けました。

カミーユ いや、僕が観たのはごく普通のサーカス、それもサーカス学校の巡業だったので、今思うと大したことはやってなかったと思うんです。それでも感動して、妹と2人で色々工夫をしながら真似をして、近所の路上でパフォーマンスをやり始めたんですけど。

野田 どういうことをしていたの?

カミーユ ワインのボトルの上に片足で立つとか、そういうシンプルなこと。今だったら、危ないとか、無茶だとか、そういう感覚が先に来るけど、子どもの頃はそういう感覚はないですからね。やりたいと思ったらすぐにやるし、誰に教わったわけじゃなくても、意外とできちゃう。

野田 わかる気がする。やっぱり人は、もともとそういう“危うい”ものに惹かれるところがあるんだろうね。今、身体性の強いパフォーマンスをやっているクリエイターも、みんなサーカスと繋がっているよね。テアトル・ド・コンプリシテもそうだし、ロベール・ルパーージュもシルク・ドゥ・ソレイユの仕事をしているし。日本の伝統芸能も、昔は相当身体性の高い役者がやってたみたいだよ。お能もかつてはケレンがあったようで、橋掛かりから本舞台上に跳んでいたらしい。でも、今はそういうことができる人がいないから、そういう身体性の高い演目自体が消えていく。

カミーユ それは残念ですね。

野田 そうだ! カミーユさんにお土産として、右足と右手、左足と左手と一緒に動かす“なんば”という歩き方を伝授しますよ(と、やって見せる)。“飛脚”という江戸時代の郵便配達人がなんばで走っている絵が残っていて、日本人は明治時代に西洋式軍隊を取り入れるまで、こうやって歩いたり、走ったりしていたらしい。次の次くらい作品で使ってみてよ(笑)。

カミーユ いいですね(笑)。実は僕、フランスの支援によるレジデンス・アーティストとしても2度ほど日本に来ていて、『リメディア』に繋がるベースは日本で作ったものなんですよ。それで今度はリサーチも含めたワークショップを日本でやって、何か日本で作品を創りたいと思っていたんです。日本には来るたびに、なぜだかまた来なくなるんですよ。

野田 それは一人じゃなくて、日本人とやるということ?

カミーユ はい。正直、僕は人とワークショップをやるタイプの人間ではないんですが、ぜひ次回は、日本の人たちと一緒に何かを作れるような、お互いがそれを求めているような場になればと思っています。こうして野田さんや東京芸術劇場の皆さんとも出会えたことでし、これをさらに深めてもう一歩先に行きたいなど。

野田 作品のイメージみたいなものは既にあるの?

カミーユ アイディアは色々あります。今日いただいたアイディアだけでも何かできそうだし(笑)。でもまずは、ワークショップが出会いの場になったらいいなと思っていて。たとえば、毎日一人ずつ日本のアーティストと即興をやって知り合いながら、自分と合う人を探せたらなど。

野田 それはすごくいいですね。芸劇でも、カミーユさんの要望に応えられそうな身体性の強いアーティストが稽古や公演をやっているから、そういう人達と日替わりで会うつというのは面白いと思うな。

カミーユ 実現したら嬉しいです。オーディションではないので、相手の人にも「カミーユいいかも」って言ってもらえるような、一方通行じゃない出会いができればいいなと思っています。

※東京芸術劇場とNODA・MAPは、2015年3月にパリの国立シャイヨー劇場で公演を行った。

取材・文:岡崎 香(演劇ライター)
通訳:名嘉地圭 写真:渡部孝弘

今回のアイタイヒト

カミーユ・ボワテル CAMILLE BOITEL

フランスのサーカス学校の名門、アカデミー・フラテリーニで学ぶ。ジェームズ・ティエレのもとでプロのパフォーマーとして活動を始め頭角を現す。2002年自身のカンパニー・リメディアを立ち上げ、同年ヨーロッパの優れたアーティストを奨励する第1回「サーカスの若き才能」コンクールで優勝。2010年には「リメディア」がフランス有数のフェスティバルMIMOSで最優秀賞受賞。東京芸術劇場では2014年に「リメディア」、2016年に「ヨブの話―善き人のいわれなき受難」を上演。サーカス・テクニクを駆使しつつも、ジャンルに捉われないユニークな創作活動を続けている。

野田秀樹 HIDEKI NODA

1955年、長崎県生まれ。劇作家・演出家・役者。東京芸術劇場芸術監督、多摩美術大学教授。東京大学在学中に「劇団 夢の遊眠社」を結成。92年劇団解散後、ロンドンへ留学。帰国後の93年に演劇企画製作会社「NODA・MAP」を設立。以来『キル』『赤鬼』『リンドラの鐘』『THE BEE』『ザ・キャラクター』『エック』『MIWA』『逆鱗』『足跡姫〜時代錯誤冬幽霊〜』などの話題作を発表。歌舞伎『野田版 研辰の討たれ』の脚本・演出や、モーツァルト歌劇『フィガロの結婚〜庭師は見た!〜』の演出、海外での共同制作など、演劇界の枠を超え国内のみならず海外でも精力的な創作活動を行う。様々なアーティストとの文化交流による「東京キャラバン」を2015年よりブラジルや東北など国内外で展開。

2017年秋 日本&海外上演予定 『表に出ろいっ!』英語版

十八代目中村勘三郎と野田秀樹が初共演した、あの伝説の舞台が、この秋、英語版として蘇る!

作・演出:野田秀樹

出演:キャサリン・ハンター as “Father”/グリン・プリチャード as “Daughter”/野田秀樹 as “Mother”

東京芸術劇場シアターイースト ほかにて上演予定。

詳細は後日公式サイトにて発表 www.geigeki.jp



東京芸術劇場の取り組み 芸劇ウインド・オーケストラ・アカデミー

芸劇の巢から羽ばたく 次世代のプロフェッショナル

芸劇ウインド・オーケストラ・アカデミーは、
公共ホールには稀な育成プロジェクト。
今年3月、1期生が巣立つのを機に、
その画期的内容をご紹介します。

“芸劇ウインド・オーケストラ”と聞けば、東京芸術劇場に籍を置く吹奏楽団＝演奏団体のように思える。それも決して間違いではない。しかし同楽団のベースはあくまで芸劇ウインド・オーケストラ“アカデミー”だ。これは2014年度に開始された、次世代のプロフェッショナル演奏家育成プロジェクト。吹奏楽を通してキャリア・アップを図るのが主旨だが、大きな特徴は、その内容が楽団での演奏にとどまらない点にある。

まずは、上野学園大学の協力のもとで年5～6回行われる「キャリアアップゼミ」。作曲家や指揮者、ジャズ奏者等が話す音楽面の知識のみならず、セルフプロデュース力、著作権、税金その他、様々な分野の講師によるゼミを通して、多角的なスキルアップを図る。演奏面では、斯界トップの東京佼成ウインドオーケストラが協力。同楽団のメンバーから「レッスン」を受け、直接的な演奏技術を磨く。また劇場内での「アンサンブル演奏会」や、ラ・フォル・ジュルネ・オ・ジャポン、駅構内、商業施設、病院などでの「アウトリーチ活動」も行い、アンサンブル力を向上させながら、公衆に“聴かせる”経験も積む。そして年度末に「芸劇ウインド・オーケストラ」の演奏会を開催し、集大成的な成果を披露する。当アカデミーは、かように段階的かつ実践的なのだ。



講師：眞口一美



講師：下野竜也



日本のプロ演奏家の育成に一石を投じる

初年度は342名の応募者から38名が選出。毎年の交替を伴いながら、2016年度は40名で活動した。メンバーは、音大生、大学院生からすでにプロ活動を行っている者まで様々だが、向上心旺盛な精鋭である点に変わりなく、セルフプロデュースのゼミを踏まえて各自作成したプロフィール（アカデミーのHP）を見ても、熱い意欲が伺える。

在籍期間は最大3年ゆえ、2016年度末は1期生（＝相当数）が卒業する最初の節目を迎える。彼らは、座学や実演を積み重ね、年度末の演奏会では、井上道義、秋山和慶、鈴木優人という最前線の指揮者のもとで瑞々しい演奏を展開。一流作曲家に委嘱した新作の初演等を含めて、音楽的な成果もあげてきた。

公立文化施設が、若手に演奏の場を提供するだけでなく、自ら楽団を組織し、こうした形で育成を行うケースは極めて珍しい。特に、学校や経歴を超えたニュートラルな視座での実施は、日本のプロ演奏家育成の在り方に一石を投じる、意義深い試みと言えるだろう。巣立つアカデミー生の幅広い活躍を期待しつつ、3年の実践を経たプロジェクトの今後、よりいっそう注目していきたい。

文：柴田克彦（音楽評論家）

芸劇ウインド・オーケストラ・アカデミー

HP：www.geigeki.jp/performance/geigekiwoa/

Facebook：www.facebook.com/geigeki.wind.orchestra.academy/



I N F O R M A T I O N

受講生募集

ストリートアーティスト・アカデミー2017夏期

5月30日（火）～7月27日（木）（全15回予定） リハーサルルーム



第一線で活躍する大道芸人を講師に、ストリートパフォーマーを育成するワークショップを開講します。切磋琢磨し、芸を磨きたいパフォーマー大募集!! 開催日のお昼には参加者によるパフォーマンスを劇場前広場でご覧いただけます。

【お問合せ】東京芸術劇場 事業調整係 03-5391-2116

鑑賞サポート

目や耳の不自由な方を対象に、舞台・公演説明会、字幕機提供サービス（対象日限定・無料・要事前申込）等を実施しています。詳細は事業ごとに異なります。

4月6月対象公演

ハムレット	4月27日（木）
ナイトタイム・パイプオルガンコンサートVol.17	5月25日（木）
ランチタイム・パイプオルガンコンサートVol.120	6月29日（水）
ナイトタイム・パイプオルガンコンサートVol.18	

【お問合せ】東京芸術劇場ボックスオフィス 0570-010-296

詳しくはHPをご覧ください www.geigeki.jp



舞台芸術学院

活躍中の同窓生

市村正親 鶴山仁 大倉孝二 柿澤勇人 木野花 田中彰孝 田村孝裕 辻谷耕史
濱田めぐみ 平岩紙 福井晶一 蓬萊竜太 矢本悠馬 渡辺えり ほか

日本の建物・施設を 美しく、快適に――。

【NCS Network】

〈東日本〉

〔北海道〕

札幌/帯広

〔東北〕

仙台/福島

〔関東甲信越〕

宇都宮/古河/高崎/小諸

〔首都圏〕

東京(23区・三多摩)/厚木/横浜/千葉/埼玉/熊谷

〔東海中部〕

小田原/富士/静岡

〈西日本〉

〔関西〕

大阪/神戸/京都/奈良/和歌山/名古屋/三重

〔中国四国〕

岡山/広島/高松

〔九州沖縄〕

福岡/長崎/沖縄



日東カストアル・サービス株式会社

http://www.nitto-cs.jp/

